

2026（令和8）年度 別科助産専攻シラバス

助産学基礎科目
助産学概論
周産期医学Ⅰ（産科領域）
生殖医療・遺伝学
周産期医学Ⅱ（小児科領域）
母子と家族の心理
生命倫理

助産診断・技術領域
助産診断・技術Ⅰ（妊娠期）
助産診断・技術Ⅱ（分娩期）
助産診断・技術Ⅲ（産褥・新生児期）
ハイリスク助産診断・技術学
助産診断・技術演習Ⅰ（妊娠期）
助産診断・技術演習Ⅱ（分娩期）
助産診断・技術演習Ⅲ（産褥・新生児期）
地域母子保健
地域母子保健演習
助産過程演習
助産管理学

実 習
助産学実習Ⅰ（妊娠期）
助産学実習Ⅱ（分娩期、産褥・新生児期）
助産学実習Ⅲ（継続事例）
助産学実習Ⅳ（助産業務管理）
助産学実習Ⅴ（地域母子保健）

研 究
情報科学演習
助産研究Ⅰ（基礎）
助産研究Ⅱ（実践）

授業科目名	助産学概論	担当教員名	間中伴子、岡本喜代子			
コード		区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。					
	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。					
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。					
○	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。					
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。					
【授業の概要】 助産学の基本的概念およびそれに関連する理論を理解し、社会的責務を遂行するための助産師の役割や業務範囲、関係する法的基盤を理解する。また、助産の現状と課題の動向、母子保健の変遷、助産師の責務、職業倫理について理解を深め、諸外国の動向を学ぶことで、これからの助産学の方向と助産師のあり方について考える。具体的には、助産の概念では、助産の起源、出産の変遷、助産の定義、助産の意義と本質、助産の対象そして助産の将来、また、関係する概念としてリプロダクティブヘルス・ライツ、ジェンダー、性差医療について学ぶ。助産師の定義と業務では、関連する法律、助産師の業務と責任、我が国におけるこれからの助産師の役割と働き方を改めて考察する機会を設ける。さらには、助産師を支える理論と研究においては、助産学を構成する理論、助産研究について師式を深める。他に助産師と倫理、母子保健の動向、助産師の歴史と文化、助産師と教育の在り方を学ぶ。						
【授業の到達目標】						
評価方法						
			①	②	③	④
1 助産に関する概念について説明できる。				○		
2 助産師の定義と業務について説明できる。				○		
3 助産師を支える理論と研究について説明できる。			○			
4 助産の歴史と文化について説明できる。				○		
5 母子保健の動向について説明できる。			○			
6 助産師と教育について説明できる。			○			
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	ガイダンス 第1章 助産の概念 A. 助産の概念	間中伴子	予習 第1章を精読し、助産の概念についてまとめておく (30分)			
2	第1章 助産の概念 B 助産に関する概念	間中伴子	予習 第1章を精読し、助産に関する概念についてまとめておく (90分) 復習 学んだ内容の要旨をA4用紙1枚程度にまとめる。(90分)			
3	第2章 助産師の定義と業務 A 助産師の 定義と関連する法律 B 助産師の業務と責任と関連する法律 C 我が国におけるこれからの助産師の役割・働き方	間中伴子	予習 第2章を精読し、助産師の定義と業務についてまとめておく (90分) 復習 学んだ内容の要旨をA4用紙1枚程度にまとめる。(90分)			
4	第3章 助産師を支える理論と研究 A助産学を構成する理論 B研究と助産師	間中伴子	予習 第3章を精読し、助産師を支える理論と研究についてまとめておく (90分) 復習 学んだ内容の要旨をA4用紙1枚程度にまとめる。(90分)			
5	第4章 助産師と倫理 A 倫理的判断を支える諸概念 B 倫理的な助産実践を支える諸規定 C助産実践にかかわる倫理的課題と意思決定支援	岡本喜代子	予習 第4章を精読し、助産師と倫理についてまとめておく (90分) 復習 学んだ内容の要旨をA4用紙1枚程度にまとめる。(90分)			
6	第5章 助産の歴史と文化 A古代から江戸時代までの助産の変遷 B明治～現在までの助産の変遷 C諸外国の助産の変遷 D助産の文化論	岡本喜代子	予習 第5章を精読し、助産の歴史と文化についてまとめておく (90分) 復習 学んだ内容の要旨をA4用紙1枚程度にまとめる。(90分)			
7	第6章 母子保健の動向 A母子保健の歴史 B母子保健の動向と諸制度	間中伴子	予習 第6章を精読し、母子保健の動向についてまとめておく (90分) 復習 学んだ内容の要旨をA4用紙1枚程度にまとめる。(90分)			
8	第7章 助産師と教育 Aわが国における助産師教育 B諸外国における助産師教育 まとめ	間中伴子	予習 第7章を精読し、助産師と教育についてまとめておく (90分) 復習 学んだ内容の要旨をA4用紙1枚程度にまとめる。(90分)			
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫		
①:PBL(課題解決型学習)				アイスブレイク、DVDを活用		
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○			
③:ディスカッション・ディベート			○			
④:グループワーク			○			
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】 課題レポートに対するフィードバックは、個別にメールで行う。						

<b>【成績の評価方法】</b>					
①課題:50% ②定期試験:50% 合計:100%					
<b>【生成AI利活用（有）】</b>					
本授業では、助産の概念理解・専門職性・倫理的判断を深めるために、生成AIを学習支援ツールとして活用する。AIの出力は誤りや偏りを含む可能性があるため、学生はAIの情報を批判的に吟味し、助産学の知識体系および文献に基づいて判断することを求める。AIの利用は学習プロセスの一部として認めるが、最終的な説明・考察・判断は学生自身の責任で行うこと。					
<b>【ルーブリック評価の活用（無）】</b>					
<b>【履修申請上の条件】</b>					
特になし					
<b>【教科書】</b>					
	書名	出版社	ISBN	書名	出版社
①	我部山キヨ子編 助産学講座 1 助産学概論	医学書院	9784260047081	⑤	
②	助産力	日本助産師会出版	9784905023173	⑥	
③				⑦	
④				⑧	
<b>【参考書】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子保健研究会編集:わが国の母子保健</li> <li>・厚生労働省児童家庭局母子保健課:母子保健の主たる統計</li> <li>・看護行政研究会監修:看護六法、新日本法規出版会</li> <li>・新版 助産師業務要覧 2024年版 [I 基礎編]</li> <li>・助産業務ガイドライン2023</li> <li>・子宮力:日本助産師会出版</li> <li>・母乳力:日本助産師会出版</li> <li>・助産師の声明/コアコンピテンシー2021:日本助産師会出版</li> </ul>					
<b>【オープンな教育リソース】</b>					
特になし					
<b>【担当教員の実務経験】</b>					
<p>岡本喜代子 長年助産所を開業し現在も継続している。元日本助産師会会長、現在日本助産師会館理事長を務める。助産師として豊富な経験を活かした講義を行う。</p> <p>間中 助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。</p>					
<b>【オフィスアワー】</b>					
<p>岡本喜代子 学務課を通して連rカウする。</p> <p>間中:月～金 12:10～13:00</p>					
<b>【教員連絡先】</b>					
<p>岡本喜代子 学務課を当して連絡する。</p> <p>間中メールアドレス tmanaka@g.t-junshin.ac.jp</p>					
<b>【備考】</b>					
助産学の入門となる科目です。助産師を目指すものとして自ら課題を見つけ、さらにその課題を自ら解決する能力を身に付けるよう努力しましょう。					

授業科目名	周産期医学 I (産科領域)	担当教員名	塚本 哲 ・ 古川佳代子・						
コード		区分 (必修・選択)	必修 ○	選択					
年次/期間	○年次/前期 or 後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】								
◎	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。								
	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。								
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。								
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。								
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。								
【授業の概要】									
周産期の領域における様々な病態生理・治療について学び、妊娠、分娩、産褥期にある対象の正常と異常について学ぶと共に合併症や予防の対応について理解を深める。具体的には、医学的に見たハイリスク妊娠、異常妊娠・合併症妊娠(異常分娩(回旋異常の分娩機転、分娩誘発・促進の方法、VBAC、帝王切開術、骨盤位分娩、吸引・鉗子分娩、異常出血とその対応、産科ショック、DIC、産科麻酔、胎児機能不全、さらに異常産褥(産褥期の異常出血と対応、産褥感染症の原因と対応、血栓・塞栓症、産褥精神障害、尿失禁 乳腺症さらに妊娠・分娩・産褥・授乳期と薬剤、母体-胎児間の免疫、主な母子感染、思春期、成人期、更年期、老年期に起こりやすい異常(ホルモン治療)まで助産師として必須の知識を教授する。									
【授業の到達目標】									
					評価方法				
					①	②	③	④	⑤
1 妊娠の生理について説明することができる。					○	○			
2 母体-胎児間の免疫、主な母子感染、婦人科感染症について説明することができる。					○				
3 女性生殖器の疾患と乳房の疾患と検査について説明することができる。					○				
4 妊娠期の異常・合併症妊娠について学んだ内容を記述することができる。					○				
5 分娩期の異常・合併症について学んだ内容を記述することができる。					○				
6 産褥期の異常・合併症について学んだ内容を記述することができる。					○				
【授業計画】									
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)						
1	女性のライフサイクル各期におこる主な疾患 1.思春期、成熟期の疾患、2.更年期、老年期の疾患	塚本	予習 思春期、成人期、更年期、老年期に起こりやすい異常(ホルモン治療)についてテキストの該当箇所を読み、分からないことを抽出する。(90分) 復習 学んだ内容の要旨をノートにまとめる。(90分)						
2	妊娠の生理 1)妊娠とそれに伴う母体の変化 (1)妊娠の概念(2)妊娠の成立(3)妊娠の維持(4)妊娠による母体の変化 2)胎児の発育と胎児付属物 (1)胎児の成長と発達(2)胎児付属物(3)胎児期における臓器の成熟 母子と免疫 1.免疫学概論 2.母体の免疫学特性 3.胎児の免疫学的特性 4.新生児の免疫学的特性	塚本	予習 テキストの妊娠の生理、母子と免疫 に関する該当箇所を読み、分からないことを抽出する。(30分) 復習 学んだ内容をノートにまとめる。(60分)						
3	母子と感染 1.母子感染概論 2.母子感染各論 婦人科感染症 1.婦人科の炎症性疾患 2.性感染症	塚本	予習 テキストの母子と感染、婦人科感染症の該当箇所を読み、分からないことを抽出する。(90分) 復習 学んだ内容の要旨をノートにまとめる。(90分)						
4	異常妊娠・合併症妊娠 1)医学的にみたハイリスク妊娠 2)異常妊娠-前期破水・妊娠高血圧症候群・羊水量の異常(過多・過少)FGR、血液型不適合妊娠、異所性妊娠 母子感染症 3)合併症妊娠-心疾患、糸球体腎炎、SLE、気管支喘息、糖尿病 甲状腺合併妊娠	古川	予習 テキストの異常妊娠・合併症妊娠(異常妊娠、合併症妊娠)の箇所を読み、分からないことを抽出する。(90分) 復習 学んだ内容の要旨をA4用紙1枚程度にまとめる。(90分)						
5	【4月24日 2限】 異常産褥 1)産褥期の異常出血と対応 2)産褥感染症の原因と対応 3)血栓・塞栓症 4)産褥精神障害 5)尿失禁 6)乳腺症	古川	予習(90分):異常産褥、産褥期の異常出血と対応、産褥感染小の原因と対応、血栓・塞栓症、産褥精神障害、尿失禁 乳腺症テキストの該当箇所を読み、分からないことを抽出する。(90分) 復習 学んだ内容の要旨をノートにまとめる。(90分)						
6	女性生殖器の疾患と乳房の疾患 1.子宮と付属期の疾患とその検査 1.子宮腫瘍 2. 卵巣腫瘍 3.子宮内膜症 4.検査法 2.乳房の疾患とその検査 1.乳がん 2.乳腺症 3.乳腺炎 4.乳房の検査法	塚本	予習 テキストの女性生殖器の疾患と乳房の疾患とその検査の該当する箇所を読み、分からないことを抽出する。(90分) 復習 学んだ内容の要旨をA4用紙1枚程度にまとめる。(90分)						
7	異常分娩 1)回旋異常の分娩機転 2)分娩誘発・促進の方法 3)VBAC 4)帝王切開術 5)骨盤位分娩	古川	予習 テキストの異常分娩(回旋異常の分娩機転、分娩誘発・促進の方法、VBAC、帝王切開術、骨盤位分娩)の箇所を読み、分からないことを抽出する。(90分) 復習 学んだ内容の要旨をA4用紙1枚程度にまとめる。(90分)						
8	異常分娩 6)吸引・鉗子分娩 7)異常出血とその対応、産科ショック、DIC 8)産科麻酔(局所麻酔も含む) 9)胎児機能不全	古川	予習 テキストの分娩期の異常・偶発疾患、胎児機能不全の箇所を読み、分からないことを抽出する。(45分) 復習 学んだ内容の要旨をA4用紙1枚程度にまとめる。(45分)						

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫				
①:PBL (課題解決型学習)		動画やアイスブレイクを活用する。				
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○					
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク						
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
・質問や意見等に対するフィードバックは、次回の講義に行う。						
【成績の評価方法】 ###						
①定期試験:90 % ②授業貢献度:10% 合計:100%						
【生成AI利活用 ( 無 )】						
【ルーブリック評価の活用 ( 無 )】						
1						
特になし						
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
	① 助産学講座 2 基礎助産学[ 2 ] 母子の基礎科学	医学書院	9784260042048	⑤		
	② 助産学講座6 助産学講座 6助産診断・技術学Ⅱ [ 1 ]妊娠期	医学書院	9784260042086	⑥		
	③ 助産学講座 7助産診断・技術学Ⅱ [ 2 ]分娩期・産褥期	医学書院	9784260042109	⑦		
	④			⑧		
【参考書】						
産婦人科診療ガイドライン 産科編2023、日本産婦人科学会 上妻志郎 武谷雄二 プリンシプル産婦人科学1・2、メジカルビュー社 小林康江編 助産師基礎教育テキスト 第7版 ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア日本看護協会						
【オープンな教育リソース】						
特になし						
【担当教員の実務経験】						
医師として専門分野において、医学的な知識、技術等を講義する。 間中:助産師としての経験と教員としての経験を生かした講義を行う。						
【オフィスアワー】						
医師として専門分野において、医学的な知識、技術等を講義する。 間中:助産師としての経験と教員としての経験を生かした講義を行う。						
【教員連絡先】						
・外部講師の場合は、学務課を通して対応する ・間中 tmanaka@g.t-junshin.ac.jp						
【備考】						
助産技術のエビデンスとなる科目であるため 確実に学びを定着させておくことが必須です。						

授業科目名	生殖医療・遺伝学	担当教員名	柿沼敏行・山本志奈子・間中伴子			
コード		区分 (必修・選択)	必修 ○	選択		
年次/期間	前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
◎	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。 ② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。 ③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。
○	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。 ⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。

【授業の概要】  
 遺伝医学や不妊治療の現状と課題について学び、出生前診断・生命倫理を基盤とした対象者へのケアの必要性や対応を理解する。具体的には、生殖医療の基礎として生殖内分泌の基礎と不妊治療の現状、一般不妊治療の概略、検査、排卵誘発、人工授精、一般治療の問題点、高度生殖医療の概略、体外受精、顕微授精、凍結保存と融解移植、胚盤胞移植、着床補助、高度生殖医療の問題点、生殖遺伝学(遺伝医学)、染色体(構造、機能、分裂のメカニズム)、遺伝子(遺伝子の構造と機能、エピジェネティック制御)まで幅広く学ぶ。また、不妊症看護認定看護師の立場から不育・不妊患者の背景や心理生殖看護の実際、生殖倫理、出生前診断の情報提供、出生前診断後の意志決定支援について学修する。

【授業の到達目標】	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 生殖医療の基礎について述べるができる。		○			
2 一般不妊治療について述べるができる。		○			
3 高度生殖医療について述べるができる。		○			
4 生殖遺伝学(遺伝医学)について述べるができる。		○			
5 不育・不妊患者の背景や心理生殖看護について述べるができる。	○				

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	A 遺伝医学の重要性 1 遺伝医学の歴史と医療 2 遺伝医療の特徴と助産師 B 染色体の異常による疾患とその検査 1 染色体の基礎知識 2 染色体異常 3 染色体解析法	柿沼敏行	予習(90分):授業内容「生殖医療の基礎としての生殖内分泌、不妊治療の現状」を調べ予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
2	C 遺伝子と遺伝子解析法 1 遺伝子の構造と機能 2 エピジェネティック制御 3 遺伝子変異と遺伝的多型 4 遺伝子解析法 D 遺伝性疾患 1 メンデル遺伝病(単一遺伝子病) 2 非メンデル遺伝病	柿沼敏行	予習(90分):授業内容「一般不妊治療の概略、検査、排卵誘発、人工授精、一般治療の問題点」について調べ予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
3	E 出生前診断 1 出生前診断の概念・目的・倫理 2 出生前診断におけるガイドライン・見解 3 検査精度 4 非確定的検査 5 確定的検査 6 出生前診断における遺伝カウンセリングの実際 7 着床前遺伝子診断	柿沼敏行	予習(90分):授業内容「高度生殖医療の概略、体外受精、顕微授精、凍結保存と融解移植」について調べ予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
4	生殖補助医療 A 生殖補助医療の実際 1 人工授精 2 精子処理法 3 卵巣刺激法 4 体外受精とその関連技術 5 凍結保存 6 卵管不妊のカテーテル治療 7 着床前遺伝子診断 8 精巣または精巣上体からの精子の回収	柿沼敏行	予習(90分):授業内容「胚盤胞移植、着床補助、高度生殖医療の問題点」について調べ予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
5	B 生殖補助医療の問題点 1 体外受精に関する副作用 2 生殖補助医療に関する倫理・社会面での諸問題 3 不妊症・不育症への支援	柿沼敏行	予習(90分):授業内容「染色体(構造、機能、分裂のメカニズム)、遺伝子(遺伝子の構造と機能、エピジェネティック制御)」について調べ予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
6	不妊症看護認定看護師の立場から 不育・不妊患者の背景や心理生殖看護の実際	山本志奈子	予習(90分):授業内容「不育・不妊患者の背景や心理生殖看護」について調べ予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
7	出生前診断の情報提供 出生前診断後の意志決定支援	山本志奈子	予習(90分):授業内容「出生前診断の情報提供、出生前診断後の意志決定支援」について調べ予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
8	グループワーク テーマ「助産師として、人(遺伝子)の多様性をどうとらえていくか」	間中伴子	予習(30分):グループワークのテーマについて自分の考えをノートにまとめディスカッションに備える。 復習(60分):学んだことを自己ノートにまとめる。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫				
①:PBL (課題解決型学習)	○	・生殖医療や出生前診断に関する最新のガイドラインや事例を取り上げ、少人数で課題分析や意思決定プロセスを検討する演習を行い、助産師としての判断力を養う。 ・遺伝学的検査や高度生殖医療の流れを理解するため、図表・症例ベースの学習教材を用いて、検査の選択理由や結果解釈をグループで整理する機会を設ける。 ・不妊・不育患者の心理や背景に関する講義では、ロールプレイやディスカッションを通して、支援者としてのコミュニケーションの在り方を考察する。 ・出生前診断後の意思決定支援について、複数の価値観を想定したケーススタディを用い、倫理的配慮と支援方法を多角的に検討する。				
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○					
③:ディスカッション・ディベート	○					
④:グループワーク	○					
⑤:プレゼンテーション	○					
⑥:実習・フィールドワーク						
<b>【課題のフィードバック】</b> 提出された課題については、次回授業時に講評・フィードバックを行います。						
<b>【成績の評価方法】</b> ①課題:20% ②定期試験:80% 合計:100%  <b>【生成AI利活用 ( 有 )】</b> 生成AIは、文献整理、概念の理解、業務改善案の検討、管理上の意思決定プロセスの整理など、学習支援目的に限り利用を認める。課題においてAIを利用した場合は、利用したツール名、利用目的、出力をどのように批判的に検討し修正したかを明記すること。  <b>【ルーブリック評価の活用 ( 無 )】</b>						
<b>【履修申請上の条件】</b> 特になし						
<b>【教科書】</b>	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
	① 基礎助産学[2]母子の基礎科学 第6版	医学書院	9784260042048	⑤		
	②			⑥		
	③			⑦		
	④			⑧		
<b>【参考書】</b> 生殖医療ポケットマニュアル 第2版 医学書院 9784260048682 生殖看護ガイドブック 医学書院 9784260053396						
<b>【オープンな教育リソース】</b> 特になし						
<b>【担当教員の実務経験】</b> 医師として専門分野において、医学的な知識、技術等を講義する。 間中:助産師としての経験と教員としての経験を生かした講義を行う。						
<b>【オフィスアワー】</b> ・外部講師の場合は、学務課を通して対応する ・間中 月～金 12:10～13:00						
<b>【教員連絡先】</b> ・外部講師の場合は、学務課を通して対応する ・間中 tmanaka@g.t-junshin.ac.jp						
<b>【備考】</b> 生殖医療・遺伝学の領域は、科学的知識と倫理的判断が密接に関わる分野である。本授業では、専門的な知識の習得に加え、対象者の価値観や背景を尊重しながら支援する姿勢を重視する。学んだ内容を実習や将来の助産実践に結びつけ、科学的根拠と倫理的配慮を統合したケアを提供できるよう主体的に学修を進めてほしい。						

授業科目名	周産期医学Ⅱ(小児科領域)	担当教員名	関 和男 川越さおり			
コード		区分 (必修・選択)	必修	選択		
年次/期間	前期	単位/時間数/形態	○単位/○○時間/○○			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
◎	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。 ② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。 ③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。 ④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。

【授業の概要】  
周産期小児科領域のケアを行っていくうえで必要な病態生理・治療について学び、疾患に伴う合併症や予防の対応について理解を深める。具体的には、新生児が出生直後に示す呼吸・循環・体温調節などの適応生理を基盤として、新生児仮死や低酸素性虚血性脳症、分娩外傷などの緊急性の高い病態を理解する。また、ハイリスク児にみられる呼吸障害、チアノーゼ、けいれん、消化器症状など、正常経過からの逸脱を早期に捉える観察力を養う。さらに、母子免疫や先天感染、新生児感染症、予防接種の基礎を学び、先天異常・遺伝性疾患や新生児マスキングの意義を理解する。NICUにおける医療の流れと退院後のフォローアップ、地域の社会資源についても取り上げ、周産期から乳児期にわたる継続的支援の視点を身につけることを目指す。

【授業の到達目標】	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 新生児の適応生理の特徴を説明し、正常と異常を識別できる。		○			
2 新生児仮死、呼吸障害、けいれんなど主要病態の発症機序と初期対応を説明できる。		○			
3 母子免疫、先天感染、新生児感染症の特徴を挙げ、感染予防の視点から評価できる。		○			
4 先天異常・遺伝性疾患の分類や遺伝様式を記述し、家族支援に必要な看護の視点を説明できる。		○			
5 NICU から退院後までの支援内容を整理し、社会資源を活用した支援計画を立案できる。	○				

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	周産期用語 新生児の適応生理 1)呼吸の適応 2)循環の適応 3)体温調節 4)血液の変化 5)新生児黄疸 6)栄養・体液バランスの適応	関	予習:授業内容を確認し、予習する(90分)疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習:講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(90分)
2	新生児仮死と蘇生法、新生児の診察 2)新生児仮死と蘇生法 3)アプガースコア 4)低酸素性虚血性脳症 5)新生児の診察 6)分娩外傷	関	予習:授業内容を確認し、予習する(90分)疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習:講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(90分)
3	ハイリスク児、正常経過からの逸脱とおもな疾患 1)ハイリスク因子 3)チアノーゼ 4)嘔吐と腹部膨満 5)吐血、下血 8)発熱と低体温 9)心雑音 10)notdoingwell	関	予習:授業内容を確認し、予習する(90分)疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習:講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(90分)
4	母子の免疫、先天感染 1)免疫とは 2)胎児・新生児の免疫と移行抗体 3)母体の免疫異常と胎児疾患 4)母子間血液型不適合妊娠 5)感染症の基礎知識 6)先天感染(おもに胎内感染)	関	予習:授業内容を確認し、予習する(90分)疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習:講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(90分)
5	新生児感染症、乳幼児期の予防接種 1)感染症の診断法と抗体検査 2)新生児感染症の特徴 3)おもな新生児感染症	関	予習:授業内容を確認し、予習する(90分)疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習:講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(90分)
6	先天異常と遺伝性疾患 1)先天異常の分類 2)染色体とその異常 3)遺伝子、DNA、染色体 4)遺伝性疾患と遺伝様式 5)出生前診断 6)新生児マスキング	関	予習:授業内容を確認し、予習する(90分)疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習:講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(90分)
7	時間経過でみる新生児医療(NICUを中心に)、退院後と乳児健診	川越さおり	予習:授業内容を確認し、予習する(135分)疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習:講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(135分)
8	NICU退院後のフォロー、社会的資源	関	予習:授業内容を確認し、予習する(90分)疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習:講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(90分)

<b>【アクティブラーニング】</b>		チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)			ビジュアルクラウドやDVDを活用する。 Googleフォーム、課題レポートの提出に関してはGoogleドキュメントを活用する。
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○		
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク	○		
⑤:プレゼンテーション	○		
⑥:実習・フィールドワーク			
<b>【課題のフィードバック】</b>			
提出された課題のフィードバックは、次回の講義時にコメントする。			
<b>【成績の評価方法】</b>			
①課題:20% ②定期試験:80% 合計:100%			
<b>【生成AI利活用 ( 有 )】</b>			
生成AIは、文献整理、概念の理解、業務改善案の検討、管理上の意思決定プロセスの整理など、学習支援目的に限り利用を認める。 課題においてAIを利用した場合は、利用したツール名、利用目的、出力をどのように批判的に検討し修正したかを明記すること。			
<b>【ルーブリック評価の活用 ( 無 )】</b>			
<b>【履修申請上の条件】</b>			
特になし			
<b>【教科書】</b>	書名	出版社	ISBN
	① 新生児学入門 第6版	医学書院	9784260054775
	②		
	③		
	④		
			⑤
			⑥
			⑦
			⑧
<b>【参考書】</b>			
母子健康手帳(見本)母子保健事業団 助産学講座 2基礎助産学[2] 母子の基礎科学 医学書院 助産学講座 8助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳児期 医学書院 助産師基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア 新生児・乳幼児期のケア 日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 日本看護協会出版会			
<b>【オープンな教育リソース】</b>			
特になし			
<b>【担当教員の実務経験】</b>			
医師として専門分野において、医学的な知識、技術等を講義する。 川越さおり:聖マリアンナ医科大学病院 新生児集中ケア認定看護師 NICU 看護師長として専門分野において、医学的な知識、技術等を講義する。			
<b>【オフィスアワー】</b>			
・学務課を通して対応する			
<b>【教員連絡先】</b>			
・学務課を通して対応する			
<b>【備考】</b>			
新生児・乳児の健康状態は刻々と変化するため、病態生理の理解とともに、正常からの逸脱を早期に捉える観察力が重要となる。本授業で学ぶ知識を、実習や臨床での判断に結びつけられるよう、日頃から疑問点を整理し主体的に学修を進めてほしい。周産期から乳児期にわたる支援の流れを理解し、助産師として必要な視点を養うことを期待する。			

授業科目名	母子と家族の心理	担当教員名	間中伴子・清水幹子		
コード		区分 (必修・選択)	必修 ○	選択	
年次/期間	前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義		
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】				
◎	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。 ② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。 ③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。 ④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。				
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。				

【授業の概要】 326  
母子と家族の心理」のシラバスに掲載する授業概要です。「家族関係形成過程、母親役割の移行期の諸課題について現代的な社会状況の中で概観するとともに、様々な課題とその対応の現状について学ぶ。具体的には、少子化や産科医の減少、出産施設の縮小など母子を取り巻く厳しい状況、さらに家族規模の縮小や養育機能の低下といった社会的変化を踏まえ、妊娠・育児を支える家族機能の弱体化と母子・家族の心理に焦点を当てて学ぶ。また、児童虐待相談件数の増加に象徴される育児不安や虐待の問題、若者の性や生活環境の変化に伴う性感染症・薬物依存・栄養障害、外国人や性的マイノリティに特有の母子保健課題、女性へのDVなど多様な課題を取り上げ、地域が求める助産師の役割と責務について考察する。

【授業の到達目標】	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 女性のライフサイクル各期における心理・社会的課題について説明できる	○	○			
2 家族関係の発達と課題について説明できる	○	○			
3 家族と社会(家族の機能と役割、父子関係の形成と課題、多様化するライフコースと家族)について説明できる	○	○			
4 家族とケアのゆくえについて説明できる	○	○			
5 母親・父親と社会について説明できる	○	○			

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	テキスト 助産診断・技術学Ⅰ 第6版 【思春期・成熟期女性女性に特有な健康課題】 プレコンセプションケア 【就業女性に特有な健康課題】 ライフプランを考慮した健康 ワーク・ライフ・バランス 【女性への暴力と健康課題】 ドメスティック・バイオレンス<DV> 性暴力 セクシュアル・ハラスメント	清水幹子	予習:第1章 女性のライフサイクル各期における心理・社会的課題(女性のライフサイクルと心理・社会的課題、思春期・青年期女性の発達と心理・社会的課題)を読みわからない部分を調べ予習する。(45分) 復習:講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(45分)
2	テキスト 医学書院 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期 第5章 妊婦への支援 C心理・社会的支援	間中伴子	予習:第1章 女性のライフサイクル各期における心理・社会的課題(女性のライフサイクルと心理・社会的課題、思春期・青年期女性の発達と心理・社会的課題)を読みわからない部分を調べ予習する。(45分) 復習:講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(45分)
3	テキスト 日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト2025 第4巻 第7章 妊婦や家族の親準備・出産準備へのケア	間中伴子	予習:第7章 妊婦や家族の親準備・出産準備へのケアを読みわからない部分を調べ予習する。(90分) 復習:講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(90分)
4	テキスト 助産診断・技術学Ⅰ 第6版 【家族計画と受胎調節法. 指導における留意点】 基礎体温法コンドーム経口避妊薬 緊急避妊薬子宮内避妊具<IUD> 子宮内黄体ホルモン放出システム< IUS :Intrauterine Contraceptive System > 不妊手術 ベッサリー	清水幹子	予習:第2章 家族関係の発達と課題を読みわからない部分を調べ予習する。(90分) 復習:講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(90分)
5	テキスト 助産診断・技術学Ⅰ 第6版 【思春期女性への相談・教育】 月経に関する教育・相談(月経異常、月経随伴症状) 性教育(いのちの教育、生命誕生)	清水幹子	予習:第3章 家族と社会を読みわからない部分を調べ予習する。(90分) 復習:講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(90分)
6	テキスト 助産診断・技術学Ⅰ 第6版 【成人期女性への相談・教育】 家族計画 性生活 子宮頸がん検診・乳がん検診 性感染症<STI> 人工妊娠中絶 高年初産婦	清水幹子	予習:第3章 家族と社会を読みわからない部分を調べ予習する。(90分) 復習:講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(90分)
7	テキスト 助産診断・技術学Ⅰ 第6版 【周産期にある女性や家族への相談・教育】 出産準備教育(母親学級、両親学級) 祖父母向け教育(孫育て教室) 周産期・育児期にある女性や家族への相談・教育 産後の生活、家族計画 産後ケア(訪問、デイケア、宿泊ケア)	清水幹子	予習:第4章 母親・父親と社会を読みわからない部分を調べ予習する。(90分) 復習:講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(90分)
8	テキスト 助産診断・技術学Ⅰ 第6版 【更年期・老年期女性への相談・教育】 更年期障害、更年期症状骨粗鬆症骨盤臓器脱、尿失禁	間中トモコ	予習:第5章 子どもと社会を読みわからない部分を調べ予習する。(90分) 復習:講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(90分)

<b>【アクティブラーニング】</b>	チェック欄	その他の工夫				
①:PBL (課題解決型学習)		*ビジュランクラウドやDVDを活用する。 Googleフォーム、課題レポートの提出に関してはGoogleドキュメントを活用する。				
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○					
③:ディスカッション・ディベート	○					
④:グループワーク						
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						
<b>【課題のフィードバック】</b>						
課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。						
<b>【成績の評価方法】</b>						
①課題:50% ②定期試験:50% 合計:100%						
<b>【生成AI利活用 (有)】</b>						
生成AIは、文献整理、概念の理解、業務改善案の検討、管理上の意思決定プロセスの整理など、学習支援目的に限り利用を認める。 課題においてAIを利用した場合は、利用したツール名、利用目的、出力をどのように批判的に検討し修正したかを明記すること。						
<b>【ルーブリック評価の活用 (無)】</b>						
<b>【履修申請上の条件】</b>						
特になし						
<b>【教科書】</b>	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
	① 助産学講座4 基礎助産学[4]母子の心理社会学	医学書院	9784260050036	⑤		
	② 助産学講座5 助産診断・技術学 I 妊娠期 第6版	医学書院	9784260042260	⑥		
	③ 助産学講座6 助産診断・技術学 I 第6版	医学書院	9784260042086	⑦		
	④ 助産師基礎教育テキスト2025第4巻妊娠期の診断とケア 日本看護協会出版会	9784818027947		⑧		
<b>【参考書】</b>						
母性の心理社会的側面と看護ケア 医学書院 9784260348737 家族看護学改訂第3版臨床場面と事例から考える 南江堂 9784524229291 我部山キヨ子 助産学講座3 母子の健康科学 第6版 医学書院 9784260049917						
<b>【オープンな教育リソース】</b>						
特になし						
<b>【担当教員の実務経験】</b>						
・清水幹子:助産師、アドバンス助産師、筑波大学博士後期課程在学中、矢島助産院助産師看護学校や助産師学校などで教鞭。小中学校などの性教育実施。ラジオフューズにてセクシャリティや性を語る番組『アイノカタチ.chu』のパーソナリティ。東京都助産師会理事。 ・間中伴子:助産師として大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。						
<b>【オフィスアワー】</b>						
清水幹子 学務課を通して対応する 間中伴子 月～金 12:10～13:00						
<b>【教員連絡先】</b>						
清水幹子 学務課を通して対応する 間中伴子 tmanaka@g.t-junshin.ac.jp						
<b>【備考】</b>						
教育上の必要に応じて、授業内容・方法・日程を一部変更する場合がある。変更が生じた際は、授業内または学内システムを通じて速やかに周知する。						

授業科目名	生命倫理学	担当教員名	柳原真知子			
コード		区分 (必修・選択)	必修 ○	選択		
年次/期間	前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
◎	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。 ② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。 ③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。 ④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。

【授業の概要】 381  
 医学と社会の高度化により医療従事者が直面する倫理的課題は、個人的な倫理観や経験だけでは対応が難しくなった。特に助産師は解決困難な倫理的課題に遭遇する機会が多い。講義では生命倫理学の理論と技術を学び、現場における倫理分析能力を介して助産師が専門職として産科医療に貢献することをめざす。また、倫理的課題が集中する先端医学に関わる知識と妊産婦や家族への対応技術(遺伝カウンセリングなど)の学びを踏まえ、助産師の専門性を高めることを目的とする。具体的には、生命倫理、倫理原則、ケアの倫理、倫理的な助産実践を支える諸規定、ICMによる助産師の国際倫理綱領、日本助産師会による助産師の倫理綱領、日本助産師会が示す「倫理的感応力」、助産実践にかかわる倫理的課題と意思決定支援、周産期医療における倫理的課題とその特徴、倫理的課題に対する助産師による意思決定支援について学ぶ。

【授業の到達目標】	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 わが国の民族・慣習から生命倫理について記述することができる。	○	○			
2 出生前検査に伴う生命倫理について記述することができる	○	○			
3 着床前診断と生命倫理について記述することができる	○	○			
4 新生児スクリーニングと生命倫理について記述することができる	○	○			
5 若年がんと生命倫理について記述することができる	○	○			
6 ハイリスク妊産婦の倫理とケアの実際について説明することができる	○	○			

【授業計画】	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	道徳から倫理、そして生命倫理とは何か、その守備範囲を考える	柳原 真知子	ワークシートにより自己学習し、それを元にグループワークを行う、学習シートにより学習内容の振り返りと確認ができる。次回授業課題をホームワークシートにて自己学習する
2	明治の産婆の倫理とICM及び日本助産師会の倫理綱領との比較	柳原 真知子	授業課題をワークシートで学習する、学習された内容をグループワークで確認し、発表し共有する。学習シートで学習内容の振り返りと確認ができる。次回授業課題はホームワークシートで学習する。
3	旧優生保護法から母体保護法への変遷を通して見える倫理的課題	柳原 真知子	ワークシートによる自己学習とそれを元にグループワークを行う。学習シートにより学習内容の振り返りと確認ができる。次回授業課題をホームワークシートにて自己学習する。
4	人工妊娠中絶とリプロダクティブ・ヘルス/ライツを考える	柳原 真知子	授業課題をワークシートで学習し、その内容をグループワークで還元する。学習シートで振り返りと確認を行う。次回授業課題をホームワークシートで学習する
5	生殖医療の倫理的課題	柳原 真知子	授業課題をワークシートで学習し、その内容をグループワークで還元する。学習シートで振り返りと確認を行う。次回授業課題をホームワークシートで学習する
6	出生前診断と優生思想の倫理的課題	柳原 真知子	授業課題をワークシートで学習し、その内容をグループワークで還元する。学習シートで振り返りと確認を行う。次回授業課題をホームワークシートで学習する
7	LGBTQと倫理的課題	柳原 真知子	授業課題をワークシートで学習し、その内容をグループワークで還元する。学習シートで振り返りと確認を行う。次回授業課題をホームワークシートで学習する
8	倫理的ケア行動とインフォームドコンセント	柳原 真知子	授業課題をワークシートで行い、グループワークでその内容を討議する。学習シートで学習の振り返りと確認を行う。授業のまとめとして生命倫理の学びについて発表する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		ビジュアルクラウドやDVDを活用する。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	Googleフォーム、課題レポートの提出に関してはGoogleドキュメントを活用する。
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】  
 課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。

<b>【成績の評価方法】</b>					
①課題レポート50% ②定期試験 50% 合計:100%					
<b>【生成AI利活用（有）】</b>					
1)成績評価の対象となるレポートや課題等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文)がわかるように記載してください。					
2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。					
3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。					
<b>【ルーブリック評価の活用（無）】</b>					
<b>【履修申請上の条件】</b>					
助産の基礎科目を履修していることが望ましい					
<b>【教科書】</b>	書名	出版社	ISBN	書名	出版社
①	助産学講座 1助産学概論	医学書院	9784260047081	⑤	
②	三崎和志他生命の倫理学	大月書店	9784272431076	⑥	
③				⑦	
④				⑧	
<b>【参考書】</b>					
助産師基礎教育テキスト(日本看護協会出版会)第1巻:助産概論・母子保健 9784818027916					
生命倫理の教科書[第2版](黒崎剛・吉川栄省) 9784623093700					
臨床助産師必携(医学書院)9784260000772					
<b>【オープンな教育リソース】</b>					
特になし					
<b>【担当教員の実務経験】</b>					
看護学、とくに生涯発達看護学や性教育・セクシュアリティ教育、母性・助産領域を中心に研究・教育活動を行ってきた研究者として経験を活かした授業を行う。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
・学務課を通して対応する。					
<b>【教員連絡先】</b>					
・学務課を通して対応する。					
<b>【備考】</b>					
生命倫理は唯一の正解が存在しない領域であり、価値観の違いや社会背景を踏まえて多面的に考える姿勢が求められる。本授業では、倫理原則や歴史的背景を理解するとともに、助産師として現場で直面する倫理的課題に向き合うための思考力を養うことを重視する。授業で得た知識を、自身の経験や将来の実践と結びつけながら主体的に学修を深めてほしい。					

授業科目名	助産診断・技術学 I (妊娠期)	担当教員名	間中伴子			
コード		区分 (必修・選択)	必修 ○	選択		
年次/期間	○年次/前期 or 後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。					
	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。					
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。					
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。					
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。					
【授業の概要】						
<p>妊娠期の母体の生理的機能を理解し、妊婦と胎児の正常と異常の経過を判断するために必要な基本的知識と妊婦健康診査、保健指導の方法を学習する。具体的には、妊娠期の助産診断(妊娠成立、妊娠時期、妊婦健康診査、母体の健康状態、胎児の健康状態診断、妊婦の健康生活)とマイナートラブルの診断と対処、診察技術について学ぶ。また、妊娠期のケアでは、母体の健康状態・健康生活に関するケアとして食事行動にかかわるケア、排泄行動にかかわるケア、睡眠・休息行動にかかわるケア、動作・運動にかかわるケア、清潔行動にかかわるケア、心理・社会的側面に関するケアとして親役割の獲得・家族役割調整、社会資源の活用・就労に伴う支援、正常からの逸脱に対する助産診断とケアについて学修する。</p>						
【授業の到達目標】					評価方法	
					①	②
	1 マタニティ診断の基本的な考え方について述べる事ができる。					○
	2 マタニティ診断のプロセスについて説明できる。				○	○
	3 マタニティ診断の診断類型について説明できる。				○	○
	4 マタニティ診断の診断名について説明できる。				○	○
	5 妊娠期のマタニティ診断に基づいたケア計画を記述できる。				○	
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	<p>第1章 マタニティ診断概論</p> <p>I マタニティ診断の理解のために</p> <p>1. マタニティ診断とは</p> <p>1) マタニティ・サイクル</p> <p>2) 看護診断のタイプとマタニティ診断</p> <p>2. 看護診断と助産診断</p> <p>1) 診断</p> <p>2) 看護診断</p> <p>3) 助産診断</p> <p>4) 産科学的診断とマタニティ診断</p> <p>5) 医学診断と看護診断における共通診断と共同診断の違い</p>	間中伴子	<p>予習(90分)テキストの「第1章 マタニティ診断概論」の「I マタニティ診断の理解のために」の部分を読み要点をまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。</p> <p>復習(90分)学んだことをノートにまとめる。</p>			
2	<p>II マタニティ診断のプロセス</p> <p>1. 看護過程と助産過程(マタニティ診断過程)</p> <p>2. マタニティ診断の診断・実践過程</p> <p>1) 課題・問題の把握(アセスメント)</p> <p>2) 診断名の決定までのプロセス</p> <p>3. 共同診断について</p> <p>4. 共同診断における臨床推論の活用</p>	間中伴子	<p>予習(90分)テキストの「マタニティ診断のプロセス」を読み要点をまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。</p> <p>復習(90分)学んだことをノートにまとめる。</p>			
3	<p>III マタニティ診断の診断類型</p> <p>1. 看護診断分類におけるマタニティ診断の位置づけ</p> <p>2. 診断類型開発の経緯</p> <p>3. マタニティ診断の分類(診断類型)</p> <p>1) 経過診断の診断類型</p> <p>2) 健康生活診断の診断類型</p>	間中伴子	<p>予習(90分)テキストの「マタニティ診断の診断類型」の部分を読み要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。</p> <p>復習(90分)学んだことをノートにまとめる。</p>			
4	<p>IV マタニティ診断の診断名</p> <p>1. 看護診断の構成要素</p> <p>2. 診断名とその表現</p> <p>3. 診断指標</p> <p>V マタニティ診断とケアの実践・評価</p> <p>1. 診断とケア</p> <p>2. 実践評価</p> <p>VI 今後の課題と展望</p> <p>1. 課題</p> <p>2. 展望</p>	間中伴子	<p>予習(90分)テキストの「マタニティ診断の診断名」の部分を読み要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。</p> <p>復習(90分)学んだことをノートにまとめる。</p>			
5	<p>第2章 妊娠期のマタニティ診断</p> <p>I 妊娠期のマタニティ診断の特徴と着目点</p> <p>II 妊娠期の診断類型と診断名のつけ方</p> <p>1. 診断に必要な情報</p> <p>1) 情報</p> <p>2) 情報源</p> <p>3) 経過診断に必要な情報</p> <p>4) 健康生活診断に必要な情報</p>	間中伴子	<p>予習(90分)テキストの「妊娠期のマタニティ診断」の部分を読み要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。</p> <p>復習(90分)学んだことをノートにまとめる。</p>			
6	<p>2. 経過診断の診断類型と診断名のつけ方</p> <p>類型1 妊娠の確定</p> <p>類型2 分娩予定日・妊娠時期</p> <p>類型3 妊娠経過</p> <p>類型4 母体の状態</p> <p>類型5 胎児の状態</p> <p>類型6 胎児付属物の状態</p>	間中伴子	<p>予習(90分)テキストの「経過診断の診断類型と診断名のつけ方」の部分を読み要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。</p> <p>復習(90分)学んだことをノートにまとめる。</p>			

7	3. 健康生活診断の診断類型と診断名のつけ方 類型1 基本的な生活行動 類型2 精神・心理的生活行動 類型3 社会的な生活行動 類型4 出産育児行動	間中伴子	予習(90分)テキストの「健康生活診断の診断類型と診断名のつけ方」の部分を読み要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。 復習(90分)学んだことをノートにまとめる。			
8	III 事例にみる妊娠期のマタニティ診断の実際とケア計画 1. 経過診断におけるケア計画 2. 健康生活診断におけるケア計画 ・順調な経過をたどっている初妊婦(妊娠20週0日)のマタニティ診断とケア計画 ・要経過観察・要支援と診断した初妊婦(妊娠34週0日)のマタニティ診断とケア計画	間中伴子	予習(60分)テキストの「事例にみる妊娠期のマタニティ診断の実際とケア計画」の部分を読み要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。 復習(30分)学んだことをノートにまとめる。			
<b>【アクティブラーニング】</b>		チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)			アイスブレイク、ビジュアルクラウドやDVDを活用する。			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○				
③:ディスカッション・ディベート		○				
④:グループワーク						
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						
<b>【課題のフィードバック】</b>						
・質問や課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。						
<b>【成績の評価方法】</b>						
①課題:50%						
②定期試験:50%						
合計:100%						
<b>【生成AI活用(有)】</b>						
1)成績評価の対象となるレポートや課題等の作成において、生成AIが作成した内容(以下、生成AIの回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文)がわかるように記載してください。						
2)生成AIの回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。						
3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。						
<b>【履修申請上の条件】</b>						
特になし						
<b>【教科書】</b>	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
	① 実践 マタニティ診断 第6版	医学書院	9784260062633	⑤		
	② 助産師講座 0 助産診断・技術 第11巻 第0版 11期	医学書院	9784260042086	⑥		
	③ 今日の助産 改訂第4版	南江堂	9784524246250	⑦		
	④ マタニティ診断ガイドブック 第7版	医学書院	978-4-260-06240-4	⑧		
<b>【参考書】</b>						
産婦人科診療ガイドライン—産科編 2023—日本産科婦人科学会編集・監修 9784907890285						
病気がみえる10 産科、Medic Media. 9784896327137						
<b>【オープンな教育リソース】</b>						
特になし						
<b>【担当教員の実務経験】</b>						
助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。						
<b>【オフィスアワー】</b>						
月～金 12:10～13:00						
<b>【教員連絡先】</b>						
間中:tmanaka@g.t-junshin.ac.jp						
<b>【備考】</b>						
助産ケアを行う上で基本となる診断技術です。臨地実習においても臨床においてもマスターしておくことが前提であると考え学修してください。						

授業科目名	助産診断・技術学Ⅱ(分娩期)	担当教員名	間中伴子 窪田裕子			
コード		区分 (必修・選択)	必修 ○	選択		
年次/期間	前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。					
	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。					
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。					
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。					
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。					
【授業の概要】						
産褥期の理解に加えて、分娩期から産褥期に至る母体と新生児の変化を体系的に学び、助産実践に必要な基礎的能力を養う。まず、分娩の生理、分娩に関する定義と種類、分娩の3要素、母体・胎児への影響について理解し、正常な分娩経過を判断するための基盤を築く。次に、分娩期の助産診断の特徴や診断類型、フィジカルアセスメント、心理・社会的側面の理解を通して、状況に応じた助産診断の思考過程を身につける。さらに、分娩介助の目標と準備、正常分娩介助の実際、胎児付属物の観察と計測を学び、助産技術の基本を理解する。加えて、産婦への支援の基本、分娩経過に沿った観察・アセスメント・ケアを学修し、産婦の身体的・心理的・社会的ニーズに応じた支援の視点を養う。これらの学びを通して、分娩期から産褥期、新生児期にわたる一連の助産実践に必要な知識と判断力を統合的に身につけることを目指す。						
【授業の到達目標】						
評価方法						
① ② ③ ④ ⑤						
1 分娩の生理、定義、種類、および分娩の3要素について説明できる。						
2 分娩期の母体・胎児に生じる生理的变化を根拠を示して説明できる。						
3 分娩期の助産診断の特徴と診断類型を踏まえて、事例に応じた助産診断を行うことができる。						
4 分娩期のフィジカルアセスメントおよび心理・社会的変化を踏まえた観察・アセスメントを実施できる。						
5 正常分娩介助の目標と準備を踏まえ、分娩経過に沿った適切なケアと支援を説明できる。						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	第1章 分娩の生理 A 分娩に関する定義と種類	間中伴子	予習(90分)テキストの第1章 分娩の生理「A 分娩に関する定義と種類」の部分を読み、要点をノートにまとめ予習する。 復習(90分)学んだことをノートに追記する。			
2	B 分娩の3要素	間中伴子	予習(90分)テキストの第1章 分娩の生理「B 分娩の3要素」の部分を読み、要点をノートにまとめ予習する。 復習(90分)学んだことをノートに追記する。			
3	C 分娩が母体・胎児に及ぼす影響	間中伴子	予習(90分)テキストの第1章 分娩の生理「C 分娩が母体・胎児に及ぼす影響」の部分を読み、要点をノートにまとめ予習する。 復習(90分)学んだことをノートに追記する。			
4	第2章 分娩期の助産診断 A 分娩期の助産診断の特徴と診断類型	間中伴子	予習(90分)テキストの第2章 分娩期の助産診断「A 分娩期の助産診断の特徴と診断類型」の部分を読み、要点をノートにまとめ予習する。 復習(90分)学んだことをノートに追記する。			
5	B 分娩期のフィジカルアセスメント	窪田裕子	予習(90分)テキストの第2章 分娩期の助産診断「A 分娩期の助産診断の特徴と診断類型」の部分を読み、要点をノートにまとめ予習する。 復習(90分)学んだことをノートに追記する。			
6			予習(90分)テキストの第2章 分娩期の助産診断「A 分娩期の助産診断の特徴と診断類型」の部分を読み、要点をノートにまとめ予習する。 復習(90分)学んだことをノートに追記する。			
7	C 分娩期の心理・社会的変化	間中伴子	予習(90分)テキストの第2章 分娩期の助産診断「C 分娩期の心理・社会的変化」の部分を読み、要点をノートにまとめ予習する。 復習(90分)学んだことをノートに追記する。			
8	第3章 分娩介助法 A 分娩介助の目標と準備	間中伴子	予習(90分)テキストの第3章 分娩介助法「A 分娩介助の目標と準備」の部分を読み、要点をノートにまとめ予習する。 復習(90分)学んだことをノートに追記する。			
9		間中伴子	予習(90分)テキストの第3章 分娩介助法「A 分娩介助の目標と準備」の部分を読み、要点をノートにまとめ予習する。 復習(90分)学んだことをノートに追記する。			
10	B 正常分娩介助法の実際	窪田裕子	予習(90分)テキストの第3章 分娩介助法「B 正常分娩介助法の実際」の部分を読み、要点をノートにまとめ予習する。 復習(90分)学んだことをノートに追記する。			
11			予習(90分)テキストの第3章 分娩介助法「B 正常分娩介助法の実際」の部分を読み、要点をノートにまとめ予習する。 復習(90分)学んだことをノートに追記する。			
12	C 胎児付属物の検査と計測	窪田裕子	予習(90分)テキストの第3章 分娩介助法「C 胎児付属物の検査と計測」の部分を読み、要点をノートにまとめ予習する。 復習(90分)学んだことをノートに追記する。			
13	第4章 産婦への支援 A 産婦への支援の基本	間中伴子	予習(90分)テキストの第4章 産婦への支援「A 産婦への支援の基本」の部分を読み、要点をノートにまとめ予習する。 復習(90分)学んだことをノートに追記する。			
14	B 分娩経過にそったケア	窪田裕子	予習(90分)テキストの第4章 産婦への支援「B 分娩経過にそったケア」の部分を読み、要点をノートにまとめ予習する。 復習(90分)学んだことをノートに追記する。			
15			予習(90分)テキストの第4章 産婦への支援「B 分娩経過にそったケア」の部分を読み、要点をノートにまとめ予習する。 復習(90分)学んだことをノートに追記する。			

【アクティブラーニング】		その他の工夫					
①:PBL (課題解決型学習)	○	ケースメソッド(事例学習) ロールプレイ(模擬場面演習) ケースメソッド、ロールプレイ、シミュレーション学習、ピアレビュー、リフレクションなどのアクティブラーニング手法を適宜取り入れ、主体的な学習を促す。					
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○						
③:ディスカッション・ディベート	○						
④:グループワーク	○						
⑤:プレゼンテーション	○						
⑥:実習・フィールドワーク							
【課題のフィードバック】							
提出された課題(レポート等)のフィードバックは個々にコメントします。							
【成績の評価方法】							
①課題レポート:20% ②小テスト:20% ③定期試験:60% 合計:100%							
【生成AI活用 (有)】							
本授業では、生成AIを学習補助として利用することを認める。ただし、AIの内容には誤りが含まれる可能性があるため、必ず教科書や授業資料で確認し、自分の判断で学習を進めること。レポートの構成案づくりや文章の推敲、専門用語の整理などの利用は認めるが、課題の全文をAIに作成させること、個人情報や臨床情報を入力すること、助産診断やアセスメントをAIに代替させることは禁止する。AIを利用した場合は、どの部分に使用したかを明記すること。評価は学生自身の理解と考察を重視する。							
【ルーブリック評価の活用 (有)】							
知識理解、助産診断の思考過程、アセスメント・ケアの技能、コミュニケーション・支援、学習態度の観点からルーブリックを用いて評価する。							
【履修申請上の条件】							
特になし							
【教科書】							
	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN	
①	新訂第2版 写真でわかる助産技術 アドバンス [動画付]	インターメディカ	9784899964896	⑤	助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版	医学書院	9784260035484
②	CG動画でわかる! 分娩のしくみと介助法	メジカルビュー社	9784758317382	⑥			
③	助産師講座 I 助産診断技術 I 第0版 [分娩期・産褥期]	医学書院	9784260042109	⑦			
④	今日の助産 改訂第4版	南江堂	9784524246250	⑧			
【参考書】							
北川真理子 今日の助産 改訂第4版 南江堂 9784524246250							
【オープンな教育リソース】							
特になし							
【担当教員の実務経験】							
間中:助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。 窪田:助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。							
【オフィスアワー】							
間中 :月～金 12:10～13:00 窪田 月～金 12:10～13:00							
【教員連絡先】							
間中:tmanaka@g.t-junshin.ac.jp 窪田:yukubota@g.t-junshin.ac.jp							
【備考】							
分娩期の学びは、最初は難しく感じるかもしれませんが、でも、ひとつひとつの知識や経験が、確かな力になります。授業では、話し合いや演習も取り入れながら、安心して学べる場をつくっていきます。わからないことは遠慮なく相談してください。							

授業科目名	助産診断・技術学Ⅲ(産褥期・新生児期)	担当教員名	西脇裕子 間中伴子 羽嶋美千子			
コード		区分 (必修・選択)	必修 ○	選択		
年次/期間	○年次 <b>前期</b> 後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					

◎	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。
	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。
○	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。
	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。

【授業の概要】  
 褥婦の身体的、心理的、社会的側面から産褥期に必要な援助をアセスメントできる知識を学ぶ。さらに知識を統合し助産診断に必要な技術を修得できる。また、新生児の生理的機能、成長発達過程を理解し、助産診断できるように学習する。ハイリスクの褥婦と新生児へのアセスメントとケアについても学習する。具体的には、産褥期の生理的変化や局所・全身の回復過程を理解し、褥婦の健康状態を的確に捉えるためのフィジカルアセスメント能力を養う。さらに、心理・社会的変化への支援や退行性変化を促すケア、産後の生活支援について事例を通して学ぶ。また、乳房管理や母乳育児支援に必要な観察・判断・ケア技術を修得する。新生児については出生直後から早期新生児期、退院後の発達を見据えたアセスメント方法を学び、正常からの逸脱を早期に捉える視点を身につける。これらを通して、褥婦と新生児双方に対する助産診断能力を総合的に高めることを目指す。

【授業の到達目標】	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 産褥期の生理的・心理的・社会的変化について、主要な特徴を説明できる。		○			
2 褥婦のフィジカルアセスメントを実施し、得られた情報から正常と異常を判別できる。		○			
3 乳房管理および母乳育児支援に必要な観察項目を挙げ、状況に応じたケアを選択できる。		○			
4 新生児の適応生理と成長発達の特徴を踏まえ、出生直後から早期新生児期のアセスメントを実施し評価できる。	○				
5 ハイリスクの褥婦および新生児に対して、リスク要因を分析し、必要な助産診断と支援計画を立案できる。	○				

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	第2部 産褥期 第9章 産褥の生理 A 産褥期の全身の変化と特徴 B 産褥期の局所的な変化と特徴	西脇裕子	予習(90分) ・産褥期の定義と期間を確認する。 ・田宮復古、内分泌変化、悪露、会陰部の回復など、全身・局所の変化を教科書で読み、主要なキーワードを整理する。 復習(90分) ・講義で扱った正常経過の指標をまとめ、異常との境界を表に整理する。 ・観察項目(子宮底、悪露、乳房、創部など)を自分でチェックリスト化する。
2	第10章 産褥期の助産診断 A 産褥期の助産診断の特徴と診断類型 B 産褥期のフィジカルアセスメント C 産褥期の心理・社会的変化	間中伴子	予習(90分) ・助産診断の概念と診断プロセスを確認する。 ・バイタルサイン、子宮復古、乳房などの基本的アセスメント項目を復習する。 ・産後の心理変化(マタニティブルーズ等)を調べておく。 復習(90分) ・事例を用いて、助産診断の流れ(情報収集→判断→支援案)を自分で書き出す。 ・心理・社会的アセスメントの視点を整理し、支援の優先度を考える。
3	第11章 褥婦への支援 A 退行性変化促進の支援 B 産後の生活に関する支援	間中伴子	予習(90分) ・田宮復古や悪露の経過を再確認し、回復を促すケアの根拠を調べる。 ・産後の生活(休養、栄養、育児環境、家族支援)に関する基本事項を読む。 復習(90分) ・典型的な褥婦の生活課題を想定し、必要な助言内容をまとめる。 ・支援の根拠を説明できるように整理する。
4	第12章 産褥期の異常・偶発疾患 A 産褥期におこる身体的な問題 B 産褥期におこる精神的な問題	間中伴子	予習(90分) ・産褥期に起こりやすい異常(出血、感染、乳房トラブルなど)を確認する。 ・産後うつの特徴とリスク因子を調べる。 復習(90分) ・異常の早期発見ポイントと対応の流れを整理する。 ・精神的問題に対する支援や相談先をまとめる。
5	第14章 乳房管理 A 母乳育児の推進 B 正常経過にある褥婦の乳房管理のためのアセスメントとケア C 健康逸脱・異常状態およびハイリスク状態にある褥婦の乳房管理のためのアセスメントとケア	羽嶋美千子	予習(90分) ・母乳の利点、授乳の基本、乳房の構造を確認する。 ・正常経過と異常(乳腺炎、乳頭トラブルなど)の違いを調べる。 復習(90分) ・正常経過の乳房アセスメント表を作成する。 ・異常時のケア選択と根拠を整理し、事例に当てはめて考える。
6		羽嶋美千子	予習(90分) ・新生児の特徴と成長発達の基本を読む。 ・助産ケアにおける新生児の役割や位置づけを確認する。 復習(45分) ・成長発達の段階とケアの関連を図式化する。 ・新生児ケアの基本的視点をまとめる。
7	第1章 新生児・乳幼児ケアの基本 A 助産ケアにおける新生児・乳幼児の位置づけ B 児の成長・発達と助産ケア 第2章 新生児のアセスメントとケア A 新生児の適応生理と成長・発達 B 正常経過逸脱状態にある新生児の診断	西脇裕子	予習(90分) ・呼吸・循環・体温調節など出生直後の適応生理を確認する。 ・新生児の異常兆候(黄疸、低血糖、呼吸障害など)を調べる 復習(45分) ・正常と逸脱の判断基準を整理する。 ・講義で扱った事例をもとに診断の流れをまとめる。
8	D 出生後24時間以内の新生児のアセスメントとケア E 早期新生児(生後7日目まで)のアセスメントとケア F 退院から4か月目までの新生児・乳児のアセスメントとケア	西脇裕子	予習(90分) ・Apgarスコア、出生直後の観察項目を確認する。 ・日齢ごとの変化(1日目～7日目)と注意点を調べる。 ・乳児期(～4か月)の発達段階を確認する。 復習(90分) ・観察結果から判断する練習問題を自分で作成して解く。 ・発達のチェック項目を整理し、家庭支援の視点をまとめる。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫				
①:PBL (課題解決型学習)		ビジュアルクラウド、DVD、アイスペイク				
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○					
③:ディスカッション・ディベート	○					
④:グループワーク	○					
⑤:プレゼンテーション	○					
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。						
【成績の評価方法】						
①課題:40% ②定期試験:60% 合計:100%						
【生成AI利活用 ( <input checked="" type="checkbox"/> )】						
1)成績評価の対象となるレポートや課題等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文)がわかるように記載してください。						
2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。						
3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。						
【ルーブリック評価の活用 ( 無 )】						
【履修申請上の条件】						
特になし						
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
①	助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ 第6版 [2]分娩期・産褥期	医学書院	9784260042109	⑤		
②	助産学講座 8助産診断・技術学Ⅱ 第6版 [3]新生児期・乳幼児期	医学書院	9784260042192	⑥		
③	実践 マタニティ診断 第6版	医学書院	9784260062633	⑦		
④	マタニティ診断ガイドブック 第7版	医学書院	9784260062404	⑧		
【参考書】						
我部山キヨ子・大石時子 助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版 医学書院 9784260035484						
仁志田 博 新生児学入門 第6版 医学書院 9784260054775						
UNICEF / WHO UNICEF /WHO 母乳育児支援ガイド アドバンスコース 医学書院						
江藤宏美他 助産師基礎教育テキスト 2025年版 第6巻 産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア 日本看護協会出版会						
【オープンな教育リソース】						
特になし						
【担当教員の実務経験】						
間中:助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。						
窪田:助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。						
西脇:助産師として、総合病院外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。						
【オフィスアワー】						
間中、窪田、西脇 :月～金 12:10～13:00						
外部講師については、学務課を通して連絡						
【教員連絡先】						
間中:tmanaka@g.t-junshin.ac.jp						
窪田:yukubota@g.t-junshin.ac.jp						
西脇:yunishiwaki@g.t-junshin.ac.jp						
外部講師については、学務課を通して連絡						
【備考】						

授業科目名	ハイリスク助産診断・技術学	担当教員名	後藤 淳子、石田 友彦、鈴木令華、他			
コード		区分 (必修・選択)	必修 ○	選択		
年次/期間	○年次/○前期 or 後期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。 ② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。 ③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。 ④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。					
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。					
【授業の概要】 妊産褥婦および胎児・新生児の病態生理、周産期各期の異常(妊娠悪阻や流早産、子宮外妊娠、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、分娩遅延、産科ショック、緊急処置、子宮復古不全、産後うつ、低出生体重児や双胎児など)、産科麻酔について理解する。また、ハイリスク児の病態生理や性機能発達、精神的問題を有している妊産褥婦の状態についても理解する。具体的には、妊娠期から産褥期までに生じる異常の背景を踏まえ、助産師として必要な観察・判断・ケアの基礎を身につけるとともに、異常徴候の早期発見に向けたアセスメント能力を養う。さらに、無痛分娩を含む産科麻酔の基礎知識や母児への影響、多職種連携の重要性を理解し、周産期医療体制の中で助産師が果たす役割を多角的に学修する。						
【授業の到達目標】						
評価方法						
① ② ③ ④ ⑤						
1 ハイリスク妊娠と助産ケアについて述べるができる						
2 妊娠期の異常とそのケアについて述べるができる						
3 分娩期の異常とそのケアについて述べるができる						
4 産褥期の異常とそのケアについて述べるができる						
5 ハイリスク新生児の疾患とそのケアについて述べるができる						
6 心理社会的なハイリスク状態にある妊産褥婦と家族へのケアについて述べるができる。						
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	【テキスト】助産師基礎教育テキスト2025年版第7巻ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 第1章 ハイリスク妊娠と助産ケア 1. ハイリスク妊娠と助産師の役割 2. 周産期医療体制における役割分担と協働・連携 3. 異常徴候の早期発見のための定期健康診査とアセスメント	後藤淳子	予習 (90分) ハイリスク妊娠と助産ケアについて予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習 (90分) 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる			
2	【テキスト】助産師基礎教育テキスト2025年版第7巻ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 第2章 妊娠期の異常とそのケア ■1 産科合併症のある妊婦へのケア ■2 合併症のある妊婦へのケア	後藤淳子	予習 (90分) 妊娠期の異常とそのケアについて予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習 (90分) 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる			
3	【テキスト】助産師基礎教育テキスト2025年版第7巻ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 第3章 分娩期の異常とそのケア ■1 娩出力の異常とケア ■2 産道の異常とケア	後藤淳子	予習 (90分) 分娩期の異常とそのケアについて予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習 (90分) 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる			
4	【テキスト】助産師基礎教育テキスト2025年版第7巻ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア ■3 胎児および胎児付属物の異常とケア 1. 胎位・胎勢の異常とケア 2. 進入の異常とケア 3. 回旋の異常とケア 4. 胎児機能不全とケア	後藤淳子	予習 (90分) 胎児および胎児付属物の異常とケアの該当する部分について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習 (90分) 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる			
5	5. 胎盤の異常とケア 6. 卵膜・臍帯の異常とケア 7. 胎児の異常とケア	後藤淳子	予習 (90分) 胎児および胎児付属物の異常とケアの該当する部分について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習 (90分) 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる			
6	【テキスト】助産師基礎教育テキスト2025年版第7巻ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア ■4 分娩に伴う損傷・合併症とケア 1. 分娩に伴う損傷とケア 2. 分娩に伴う合併症とケア	後藤淳子	予習 (90分) 分娩に伴う損傷・合併症とケアについて予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習 (90分) 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる			
7	【テキスト】助産師基礎教育テキスト2025年版第7巻ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 【テキスト】分娩の生理・病態に基づいた頸管熟化と分娩誘発法 ■5 産科処置・手術とケア 1. 産科処置・手術とケア 1   陣痛誘発/陣痛促進 1. 熟化 (1) 卵膜剥離 (2) 吸湿性子宮頸管拡張材(ラミナリア) (3) メトロイリント (4) 子宮頸管熟化剤(PGE2腫用剤:プロウペス®) 2. 子宮収縮 (1) 破膜 (2) オキシトシン (3) プロスタグランジンF2α(PGF2α) (4) プロスタグランジンE2(PGE2)経口剤	石田 友彦	予習 (90分) 産科処置・手術とケアについて予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習 (90分) 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる			

8	<p>【テキスト】分娩の生理・病態に基づいた頸管熟化と分娩誘発法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 頸管熟化のメカニズム</li> <li>2. Bishop スコア</li> <li>4. 熟化の方法</li> <li>5. 子宮収縮薬の基本的な考え方</li> <li>6. 頸管拡張時の母児の評価</li> <li>7. 子宮収縮薬使用時の母児の評価</li> <li>8. 海外のガイドラインからみた分娩誘発法</li> </ol>	石田 友彦	<p>予習 (90分) 分娩の生理・病態に基づいた頸管熟化と分娩誘発法について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。</p> <p>復習 (90分) 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる</p>
9	<p>【テキスト】助産師基礎教育テキスト2025年版第7巻ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2   吸引娩出術</li> <li>3   鉗子娩出術</li> <li>4   骨盤位牽出術</li> <li>5   子宮底圧迫法</li> <li>6   腹式帝王切開術</li> <li>8   会陰切開術</li> <li>9   分娩外傷時の縫合術</li> <li>10   胎盤圧出法/胎盤用手剥離/子宮内反整復術</li> </ol> <p>■6 緊急時の処置とケア</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産科ショック時の応急処置</li> <li>2. 緊急時のケア</li> </ol>	石田 友彦	<p>予習 (90分) 産科処置・手術とケアの該当する項目と緊急時の処置とケアについて予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。</p> <p>復習 (90分) 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる</p>
10	<p>【テキスト】図表でわかる無痛分娩プラクティスガイド</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 無痛分娩とは？</li> <li>2 無痛分娩の利点と欠点は？</li> <li>3 日本の無痛分娩の現状は？</li> <li>4 無痛分娩という医療の特徴は？</li> <li>5 医療従事者は無痛分娩をどう捉えるべきか？</li> <li>11 無痛分娩の安全管理（急変時の体制）</li> <li>12 鎮痛法と陣痛起点の組み合わせと無痛分娩のプロトコールとは？</li> <li>13 無痛分娩の適応と禁忌は？</li> <li>17 合併症妊娠（特にHDP）の無痛分娩で何に気をつけるのか？</li> <li>56 無痛分娩管理中の合併症は？ 総論</li> <li>57 母体発熱と掻痒感にはどう対応する？</li> <li>58 麻酔が分娩に与える影響は？ 総論</li> <li>59 娩出力低下にどう対応する？ ①続発性微弱陣痛</li> <li>60 娩出力低下にどう対応する？ ②怒責力の低下</li> <li>61 麻酔の産道への影響は？ ①急速な分娩進行</li> <li>62 麻酔の産道への影響は？ ②回旋異常</li> <li>69 無痛分娩でのピットフォールは？</li> <li>70 羊水塞栓症が起こったら？</li> <li>71 児娩出時の助産師の役割は？</li> <li>72 分娩後の管理はどうする？</li> <li>73 PDPH が起こったらどうする？</li> </ol>	石田 友彦	<p>予習 (90分) 無痛分娩について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。</p> <p>復習 (90分) 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる</p>
11	<ol style="list-style-type: none"> <li>57 母体発熱と掻痒感にはどう対応する？</li> <li>58 麻酔が分娩に与える影響は？ 総論</li> <li>59 娩出力低下にどう対応する？ ①続発性微弱陣痛</li> <li>60 娩出力低下にどう対応する？ ②怒責力の低下</li> <li>61 麻酔の産道への影響は？ ①急速な分娩進行</li> <li>62 麻酔の産道への影響は？ ②回旋異常</li> <li>69 無痛分娩でのピットフォールは？</li> <li>70 羊水塞栓症が起こったら？</li> <li>71 児娩出時の助産師の役割は？</li> <li>72 分娩後の管理はどうする？</li> <li>73 PDPH が起こったらどうする？</li> </ol>	石田 友彦	<p>予習 (90分) 無痛分娩について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。</p> <p>復習 (90分) 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる</p>
12	<p>【テキスト】無痛分娩パーフェクトガイド</p> <p>【第1章】助産編</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 助産師の腕が試される時！</li> <li>② 妊娠期に求められる助産</li> <li>③ 分娩期に求められる助産</li> <li>④ 産褥期に求められる助産</li> <li>⑤ 新生児期に求められる助産</li> <li>⑥ 助産師だからこそ伝えられる！</li> <li>⑦ 海外のトピック</li> </ol>	未定	<p>予習 (90分) 無痛分娩の助産編について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。</p> <p>復習 (90分) 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる</p>
13	<p>第4章 産褥期の異常とそのケア</p> <p>■1 身体的な問題のある褥婦へのケア</p> <p>■2 精神的な問題のある褥婦へのケア</p>	鈴木令佳	<p>予習 (90分) 産褥期の異常とそのケアについて予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。</p> <p>復習 (90分) 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる</p>
14	<p>第6章 心理社会的なハイリスク状態にある妊産褥婦と家族へのケア</p>	辻 あゆみ	<p>予習 (90分) 心理社会的なハイリスク状態にある妊産褥婦と家族へのケアについて予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。</p> <p>復習 (90分) 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる</p>
15	<p>6. 障害児や予後不良児を育てる親へのケア</p>		<p>予習 (90分) 心理社会的なハイリスク状態にある妊産褥婦と家族へのケアについて予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。</p> <p>復習 (90分) 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる</p>
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		○	<p>ケースベース・シナリオ学習、ミニ OSCE 形式の演習、ペア・ティーチング、ロールプレイ、概念マップ作成、ガイドライン比較ワーク、ミニ・ジャーナルクラブ等を適宜取り入れ、学生が主体的に学修し、助産診断能力・臨床判断能力・多職種連携能力を多角的に育成できるよう工夫する。</p>
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○	
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク			
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			

<b>【課題のフィードバック】</b>					
提出された課題については、次回授業時に講評・フィードバックを行います。					
<b>【成績の評価方法】</b>					
①定期試験:70%					
②課題:30%					
合計:100%					
<b>【生成AI活用（有）】</b>					
生成AIは、文献整理、概念の理解、業務改善案の検討、管理上の意思決定プロセスの整理など、学習支援目的に限り利用を認める。 課題においてAIを利用した場合は、利用したツール名、利用目的、出力をどのように批判的に検討し修正したかを明記すること。 AIの出力をそのまま使用し、管理者としての根拠・判断過程・独自の考察が確認できない場合は評価の対象としない。					
<b>【ルーブリック評価の活用（無）】</b>					
<b>【履修申請上の条件】</b>					
特になし					
<b>【教科書】</b>	書名	出版社	ISBN	書名	出版社 ISBN
	① 無痛分娩パーフェクトガイド	メディカ出版	9784840479288	⑤	
	② 分娩の生理・病態に基づいた頸管熟化と分娩誘発法	メジカルビュー社	9784758321389	⑥	
	③ 助産師基礎教育テキスト 2025年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア	株式会社日本看護協会出版会	9784818027978	⑦	
	④ 図表でわかる無痛分娩プラクティスガイド	メジカルビュー社	9784758321419	⑧	
<b>【参考書】</b>					
無痛分娩 症状アセスメントポケットマニュアル メディカ出版 9784840484480					
産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023—日本産科婦人科学会編集・監修 9784907890285					
助産診断・技術学Ⅱ [1]妊娠期 第6版 医学書院 9784260042086					
助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期 第6版 医学書院 9784260042109					
助産診断・技術学Ⅱ [3]新生児期・乳幼児期 第6版 医学書院 9784260042192□					
<b>【オープンな教育リソース】</b>					
特になし					
<b>【担当教員の実務経験】</b>					
医師として専門分野において、医学的な知識、技術等を講義する。 間中:助産師としての経験と教員としての経験を生かした講義を行う。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
・外部講師の場合は、学務課を通して対応する ・間中 月～金 12:10～13:00					
<b>【教員連絡先】</b>					
・外部講師の場合は、学務課を通して対応する ・間中 tmanaka@g.t-junshin.ac.jp					
<b>【備考】</b>					
本科目では、周産期における致死的风险を含む重要な病態を扱います。頻度は高くないものの、実習や臨床の場では、助産師として確実な判断と対応が求められる領域です。学ぶ内容は決して軽くありませんが、知識と根拠を積み重ねることで、母子の安全を守る力が確実に育っていきます。自らの学びが「誰かの命を支える力になる」という専門職としての誇りを胸に、主体的かつ意欲的に取り組んでください。					

授業科目名	助産診断・技術学演習 I (妊娠期)	担当教員名	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子			
コード		区分 (必修・選択)	必修 ○	選択		
年次/期間	前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。					
	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。					
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。					
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。					
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。					
【授業の概要】						
助産診断・技術学 I で学んだ理論や知識をもとに、妊娠期の援助を行うために必要な技術を習得する。妊婦健康診査技術、基本的な超音波画像診断技術、妊娠期の生活支援等について修得する。また出産準備クラスの企画・運営についても学習する。具体的には、妊娠期のアセスメントを踏まえた標準的な個別保健指導の構成を理解し、妊娠週数に応じた指導内容や妊婦の主体性を尊重した支援方法を学ぶ。栄養・体重管理、胎動観察、妊娠高血圧症候群や妊娠糖尿病の予防、分娩準備、産後の生活支援など主要な指導項目を根拠に基づいて整理し、個別指導案と集団指導案を作成する。さらにロールプレイを通して、妊婦との対話技術や指導の実践力を高める。						
【授業の到達目標】						評価方法
						① ② ③ ④ ⑤
1 妊娠期のアセスメントを根拠に基づいて説明できる						○
2 妊娠週数に応じた標準的な保健指導内容を選択し、指導案としてまとめることができる						○
3 妊婦の主体性を引き出すコミュニケーション技術をロールプレイで実践できる						○
4 ハイリスク徴候を判断し、必要な連携先を挙げることができる						○
5 妊娠期の個別指導案および集団指導案を作成し、発表できる						○
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	継続妊婦への標準的な保健指導案 基本構成 1. 妊婦の状況把握 (アセスメント)	間中伴子	予習・復習 (45分) テキストの「経過診断の診断類型と診断名のつけ方」の部分を読み要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。			
2	2. 妊娠週数に応じた標準的な指導内容 時期と内容 妊娠初期～中期 (～23週) 妊娠中期～後期 (24～35週) 妊娠後期 (36週～)	間中伴子	予習・復習 (45分) テキストの「経過診断の診断類型と診断名のつけ方」の部分を読み要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。			
3	3. 妊婦の主体性を引き出す支援	間中伴子	予習・復習 (45分) テキストの「経過診断の診断類型と診断名のつけ方」の部分を読み要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。			
4	4. ハイリスクの早期発見と連携	間中伴子	予習・復習 (45分) テキストの「経過診断の診断類型と診断名のつけ方」の部分を読み要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。			
5	5. 次回までの課題・生活目標の設定	間中伴子	予習・復習 (45分) テキストの「経過診断の診断類型と診断名のつけ方」の部分を読み要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。			
6	6. 指導の根拠 (エビデンス)	間中伴子	予習・復習 (45分) テキストの「経過診断の診断類型と診断名のつけ方」の部分を読み要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。			
7	標準個別保健指導案作成 ・ 栄養・体重管理 ・ 運動・姿勢・腰痛対策 ・ 胎動の観察 ・ 妊娠高血圧症候群の予防 ・ 妊娠糖尿病の予防	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子	予習・復習 (45分) テキストの「経過診断の診断類型と診断名のつけ方」の部分を読み要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。			
8	・ 乳房の手当て ・ 分娩準備 (入院時期・バースプラン) ・ 産後の生活・育児準備 ・ 社会資源の案内 ・ メンタルヘルス支援		予習・復習 (45分) テキストの「経過診断の診断類型と診断名のつけ方」の部分を読み要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。			
9	保健指導ロールプレイ (GW・資料作り) ケース1 初産婦 (妊娠24週)	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子	予習・復習 (45分) テキストの「経過診断の診断類型と診断名のつけ方」の部分を読み要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。			
10	ケース2: 経産婦 (妊娠32週) ケース3: ハイリスク妊婦 (妊娠30週)		予習・復習 (45分) テキストの「経過診断の診断類型と診断名のつけ方」の部分を読み要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。			
11	保健指導ロールプレイ (発表・相互評価)	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子	予習・復習 (45分) テキストの「経過診断の診断類型と診断名のつけ方」の部分を読み要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。			
12	妊娠期の集団指導案作成 (GW) ・ 妊娠中の栄養と体重管理 ・ 妊娠高血圧症候群の予防 ・ 妊娠糖尿病予防 ・ 胎動の観察	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子	予習・復習 (45分) テキストの「経過診断の診断類型と診断名のつけ方」の部分を読み要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。			
13	・ 妊娠中の運動と休息 ・ 産後の生活と育児準備 ・ メンタルヘルス ・ 社会資源の活用		予習・復習 (45分) テキストの「経過診断の診断類型と診断名のつけ方」の部分を読み要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。			
14	保健指導ロールプレイ (発表・相互評価)	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子	予習・復習 (90分) テキストの「経過診断の診断類型と診断名のつけ方」の部分を読み要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。			
15						

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫				
①:PBL (課題解決型学習)		アイスブレイク、動画の活用				
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○					
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク	○					
⑤:プレゼンテーション	○					
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
・課題に対するフィードバックは、次回の講義に行う。						
【成績の評価方法】						
①課題80% ②授業内での発言等授業参加度20% 合計:100%						
【生成AI利活用 ( 有 )】						
生成AIは、文献整理、概念の理解、業務改善案の検討、管理上の意思決定プロセスの整理など、学習支援目的に限り利用を認める。 課題においてAIを利用した場合は、利用したツール名、利用目的、出力をどのように批判的に検討し修正したかを明記すること						
【ルーブリック評価の活用 ( 有 )】						
【履修申請上の条件】						
特になし						
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
	① 週数別 妊婦健診マニュアル 第2版	医学書院	9784260047944	⑤ 助産学講座 5 助産診断・技術学 I 第6版	医学書院	9784260042260
	② 実践 マタニティ診断 第6版	医学書院	9784260062633	⑥		
	③ 助産学講座 6 助産診断・技術学 II 第6版 [1]妊娠期	医学書院	9784260042086	⑦		
	④ 今日の助産 改訂第4版	南江堂	9784524246250	⑧		
【参考書】						
木村 正 他 産婦人科診療ガイドライン—産科編 2023—日本産科婦人科学会編集・監修 9784907890285 井上 裕美他 病気がみえる10 産科、Medic Media. 9784896327137						
【オープンな教育リソース】						
特になし						
【担当教員の実務経験】						
間中:助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。 窪田:助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。 西脇:助産師として、総合病院外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。						
【オフィスアワー】						
間中、窪田、西脇 :月～金 12:10～13:00						
【教員連絡先】						
間中:tmanaka@g.t-junshin.ac.jp 窪田:yukubota@g.t-junshin.ac.jp 西脇:yunishiwaki@g.t-junshin.ac.jp						
【備考】						
本科目はロールプレイやグループワークを多く含むため、毎回の予習内容を踏まえた積極的な参加を求める。						

授業科目名	助産診断・技術学演習Ⅱ(分娩期)	担当教員名	窪田裕子 間中伴子 西脇裕子			
コード		区分 (必修・選択)	必修 ○	選択		
年次/期間	前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。					
	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。					
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。					
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。					
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。					
【授業の概要】						
助産診断・技術学Ⅱで学んだ理論や知識をもとに、分娩期の援助を行うために必要な助産診断および分娩介助技術、出生直後の児のケアや技術を習得する。また、ハイリスク分娩時の介助技術や会陰裂傷縫合術、産科危機的出血時の対応等について習得する。具体的には、分娩の三要素や胎児の分娩機転、分娩第1～3期の経過を理解し、児頭下降度評価や内診法など分娩進行の診断技術を学ぶ。さらに、会陰保護、児頭娩出、肩甲娩出、胎盤娩出などの基本介助手技を段階的に習得し、産痛緩和や体位調整など分娩進行に応じたケアも実践的に学ぶ。後半では、教員デモンストレーションと演習を通して、分娩介助の一連の流れを安全に遂行できる技術を身につける。						
【授業の到達目標】						
評価方法						
① ② ③ ④ ⑤						
1 正常分娩の経過と分娩の三要素を説明し、胎児の分娩機転を理解して説明できる						
2 分娩進行度を評価するためのフィジカルアセスメント(触診・内診)の基本手技を安全に実施できる						
3 分娩第2期の介助に必要な会陰保護・児頭娩出・肩甲娩出・胎盤娩出の基本手技を理解し、モデルで再現できる						
4 分娩進行に応じたケア(呼吸法・リラックス法・体位調整・産痛緩和)を根拠に基づいて選択し、説明できる						
5 分娩介助の準備(物品・環境・感染対策)を整え、分娩介助の流れをチームで協働しながら実践できる						
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	【使用テキスト】CG動画でわかる！ 分娩のしくみと介助法 1章 正常分娩の経過 1 分娩の三要素 娩出力:機能的要素(Power) 産道:形態的要素(Passage) 娩出物:胎児および付属物:形態的要素(passenger)	窪田 裕子	予習・復習(45分)テキストの該当部分と動画を視聴し要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。			
2	【使用テキスト】CG動画でわかる！ 分娩のしくみと介助法 2 胎児の分娩機転 児頭の回旋 児頭の回旋異常	窪田 裕子	予習・復習(45分)テキストの該当部分と動画を視聴し要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。			
3	3 分娩経過の全体像 前駆期(妊娠末期) 分娩の開始 分娩第1期 分娩第2期 分娩第3期 分娩第4期 (会陰裂傷縫合術、出生直後の児のケアなどの分娩間接介助を含む)	窪田 裕子	予習・復習(45分)テキストの該当部分と動画を視聴し要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。			
4	2章 分娩経過評価の基礎知識 1 児頭下降度の評価と内診法 児頭の回旋 児頭最大周囲径 胎児位置と先進部の評価と表記法 児頭下降度の評価(骨盤軸に基づいたt-station) 児頭下降度の総合的評価 内診法	窪田 裕子	予習・復習(45分)テキストの該当部分と動画を視聴し要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。			
5	31 分娩第2期の介助と会陰保護手技 肛門の保護 会陰保護章 正常分娩の介助法	窪田 裕子	予習・復習(45分)テキストの該当部分と動画を視聴し要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。			
6	排臨から発露 後頭結節の滑脱 第3回旋	窪田 裕子	予習・復習(45分)テキストの該当部分と動画を視聴し要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。			
7	児頭の娩出後 肩甲娩出の介助 躯幹娩出の介助 2 胎盤娩出法 胎盤剝離徴候 胎盤娩出	窪田 裕子	予習・復習(45分)テキストの「経過診断の診断類型と診断名のつけ方」の部分を読み要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。			
8	分娩進行に応じたケア (1)呼吸法とリラックス法 (2)分娩進行を促進する体位  【使用テキスト】新訂第2版 写真でわかる助産技術 アドバンス [動画付] 産痛緩和のケア(動画)	窪田 裕子	予習・復習(45分)テキストの該当部分と動画を視聴し要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。			
9	【演習】分娩期のフィジカルイグザミネーション 分娩進行度の診断技術(触診・内診の実際) 分娩介助に必要な基礎看護技術(滅菌ガウンテクニック他)	窪田 裕子	予習・復習(45分)テキストの該当部分と動画を視聴し要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。			
11	【演習】分娩介助法 教員による分娩介助デモンストレーション (1)分娩介助の目的	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子	予習・復習(45分)テキストの該当部分と動画を視聴し要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。			
12	(2)準備(物品・環境・介助者) (3)分娩介助技術(児頭娩出法・体幹娩出法・胎盤娩出法)		予習・復習(45分)テキストの該当部分と動画を視聴し要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。			
13	【演習】分娩介助の演習	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子	予習・復習(45分)テキストの該当部分と動画を視聴し要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。			

14	【演習】分娩介助の演習	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子	予習・復習(45分)テキストの該当する部分と動画を視聴し要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。
15	【演習】分娩介助の演習	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子	予習・復習(45分)テキストの該当する部分と動画を視聴し要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)			アイスブレイク、動画の活用、技術演習
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○	
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク			
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
・課題に対するフィードバックは、次回の講義に行う。			
【成績の評価方法】			
①技術試験80% ②授業内での発言等授業参加度20% 合計:100%			
【生成AI利活用(有)】 生成AIは、文献整理、概念の理解、業務改善案の検討、管理上の意思決定プロセスの整理など、学習支援目的に限り利用を認める。 課題においてAIを利用した場合は、利用したツール名、利用目的、出力をどのように批判的に検討し修正したかを明記すること			
【ルーブリック評価の活用(無)】			
【履修申請上の条件】			
特になし			
【教科書】	書名	出版社	ISBN
①	新訂第2版 写真でわかる助産技術 アドバンス [動画付]	インターメディカ	9784899964896
②	CG動画でわかる! 分娩のしくみと介助法	メジカルビュー社	9784758317382
③	助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ 第6版 [2]分娩期・産褥期	医学書院	9784260042109
④	今日の助産 改訂第4版	南江堂	9784524246250
⑤	助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版	医学書院	9784260035484
⑥			
⑦			
⑧			
【参考書】			
木村 正 他 産婦人科診療ガイドライン—産科編 2023—日本産科婦人科学会編集・監修 9784907890285 井上 裕美他 病気がみえる10 産科、Medic Media. 9784896327137			
【オープンな教育リソース】			
特になし			
【担当教員の実務経験】			
間中:助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。 窪田:助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。 西脇:助産師として、総合病院外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。			
【オフィスアワー】			
間中、窪田、西脇 :月～金 12:10～13:00			
【教員連絡先】			
間中:tmanaka@g.t-junshin.ac.jp 窪田:yukubota@g.t-junshin.ac.jp 西脇:yunishiwaki@g.t-junshin.ac.jp			
【備考】			
単位認定試験(分娩介助技術試験)は、助産学実習Ⅱの専修要件です。安全な分娩介助技術は、知識だけでなく繰り返し練習が必須です。			

授業科目名	助産診断・技術学演習Ⅲ(産褥・新生児期)	担当教員名	西脇裕子 間中伴子 窪田裕子						
コード		区分 (必修・選択)	必修 ○	選択					
年次/期間	前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】								
◎	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。 ② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。 ③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。								
○	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。 ⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。								
【授業の概要】									
助産診断・技術学Ⅲで学んだ知識・技術をもとに、産褥期、新生児期の援助を行うために必要な技術を習得する。また、健康な母子に対する助産診断を行った上で必要な教育を実施できる能力を養う。新生児においては、新生児蘇生法「専門」コース(Aコース)の取得を目指す。具体的には、産褥期の子宮復古の評価、乳房管理、授乳支援などの診断・技術演習を行い、模擬事例を用いたグループワークやプレゼンテーションを通して、個性のある支援計画を立案する力を養う。また、母児同室指導や退院指導など産褥期の保健指導技術を実践的に学び、早期新生児期から乳幼児期までの診断技術を段階的に習得する。さらに、新生児蘇生法の演習を通して、出生直後の児に対する安全で的確な対応能力を身につける。									
【授業の到達目標】									
					評価方法				
					①	②	③	④	⑤
1 産褥期の母体の診断技術(子宮復古・乳房・全身状態)を根拠に基づいて評価し、適切なケアを選択できる					○	○			
2 母乳育児支援に必要な診断・技術を用いて、個性のある授乳支援を計画・実施できる					○	○			
3 産褥期の母子に対して、退院指導・母児同室指導・初回授乳指導などの保健指導を体系的に実施できる					○	○			
4 早期新生児期から乳幼児期までの診断技術を用いて、成長・発達・健康状態を総合的に評価できる					○	○			
5 新生児蘇生法「専門」コース(Aコース)に必要な知識・技術を習得し、出生直後の児に対する安全な初期対応ができる					○				
【授業計画】									
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)						
1	産褥期の診断・技術演習(1) 子宮底測定、触診、復古促進ケア	西脇 裕子	予習・復習：(45分)産褥期の子宮底測定、触診、復古促進ケアについて予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。						
2	産褥期の診断・技術演習(2) 子宮底測定、触診、復古促進ケア 模擬事例によるGW	西脇 裕子	予習・復習：(45分)産褥期の子宮底測定、触診、復古促進ケアについて予習する。模擬事例についてGWの準備を行う。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義やGWのポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。						
3	産褥期の診断技術演習(3) 模擬事例による支援のプレゼンテーション	間中 伴子 窪田 裕子 西脇 裕子	予習・復習：(45分)模擬事例による支援のプレゼンテーションの準備を行う。講義後は、他の学生のプレゼンテーションからの学びや教員のコメントなどをノートにまとめる。						
4	母乳育児支援 診断・技術演習(1) 産褥期の乳房管理・授乳支援、乳房の視診、触診 ほか	西脇 裕子	予習・復習：(45分)産褥期の乳房管理・授乳支援、乳房の視診、触診について予習する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。						
5	母乳育児支援 診断・技術演習(2) 模擬事例によるGW	西脇 裕子	予習・復習：(45分)母乳育児支援に関するGWの準備を行う。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。						
6	母乳育児支援 診断・技術演習(2) 模擬事例によるGW	西脇 裕子	予習・復習：(45分)母乳育児支援について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。						
7	産褥期の保健指導技術演習(1) 母児同室指導、初回授乳指導、退院指導	西脇 裕子	予習・復習：(45分)母児同室指導、初回授乳指導、退院指導について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。						
8	産褥期の保健指導技術演習(2) 模擬事例によるGW	西脇 裕子	予習・復習：(45分)産褥期の保健指導技術について予習する。GWに必要な資料をそろえ準備を行う。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。						
9	産褥期の保健指導技術演習(3) 模擬事例によるプレゼンテーション	間中 伴子 窪田 裕子 西脇 裕子	予習・復習：(45分)GWでまとめた模擬事例によるプレゼンテーションの準備を行う。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。						
10	早期新生児期の診断・技術演習 模擬事例によるプレゼンテーション	間中 伴子 窪田 裕子 西脇 裕子	予習・復習：(45分)模擬事例によるプレゼンテーション演習の準備を行い参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。						
11	乳幼児期の診断・技術演習	西脇 裕子	予習・復習：(45分)産褥期の診断・技術について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。						
12	新生児蘇生法「専門」Aコース受講	西脇 裕子	予習：講習会で使用するテキスト『改訂2版 病院前新生児蘇生法テキスト』を熟読し、新生児蘇生法Aコースに認定講習に必要な知識の確認を行う。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習：講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる						
13									
14									
15									

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫				
①:PBL (課題解決型学習)		アイスブレイク、動画の活用 地域で開催されるNCPR Aコース認定講習受講は、自ら探し受講すること。認定された時点で報告すること。すでに認定保持者はステップアップ講習を受ける。				
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○					
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク	○					
⑤:プレゼンテーション	○					
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
・課題に対するフィードバックは、次回の講義に行う。						
【成績の評価方法】						
①課題80% ②授業内での発言等授業参加度20% 合計:100%						
【生成AI利活用 ( 有 )】						
生成AIは、文献整理、概念の理解、業務改善案の検討、管理上の意思決定プロセスの整理など、学習支援目的に限り利用を認める。課題においてAIを利用した場合は、利用したツール名、利用目的、出力をどのように批判的に検討し修正したかを明記すること						
【ルーブリック評価の活用 ( 無 )】						
【履修申請上の条件】						
特になし						
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
	① 助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ 第6版[2]分娩期・産褥期	医学書院	9784260042109	⑤		
	② 助産学講座 8助産診断・技術学Ⅱ 第6版[3]新生児期・乳幼児期	医学書院	9784260042192	⑥		
	③ 実践 マタニティ診断 第6版	医学書院	9784260062633	⑦		
	④ 助産師のためのフィジカルイグザミネーション	医学書院	9784260035484	⑧		
【参考書】						
仁志田 博司 新生児学入門 第6版 医学書院 9784260054775 平林国彦 UNICEF /WHO 母乳育児支援ガイド アドバンスコース 医学書院 江藤宏美 助産師基礎教育テキスト 2025年版 第6巻 産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア 日本看護協会出版会 9783818029569 細野茂春他 日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく 新生児蘇生法テキスト-第4版 メジカルビュー社 9784758319980						
【オープンな教育リソース】						
特になし						
【担当教員の実務経験】						
間中:助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。 窪田:助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。 西脇:助産師として、総合病院外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。						
【オフィスアワー】						
間中、窪田、西脇 :月～金 12:10～13:00						
【教員連絡先】						
間中:tmanaka@g.t-junshin.ac.jp 窪田:yukubota@g.t-junshin.ac.jp 西脇:yunishiwaki@g.t-junshin.ac.jp						
【備考】						
実習においても臨床でも助産師には、保険指導力が求められます。最低でも欠かせない部分を網羅した自分なりの標準保健指導案を作成することは、その後個別性のある保健指導に応用するための基礎資料となります。また、新生児蘇生法「専門」Aコース認定取得は分娩介助実習開始前に取得するようにしてください。						

授業科目名	地域母子保健	担当教員名	間中伴子 清水幹子			
コード		区分 (必修・選択)	必修 ○	選択		
年次/期間	前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
○	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。					
	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。					
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。					
◎	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。					
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。					
【授業の概要】						
母子保健の現状から女性・子ども・家族の健康生活を支援する助産師の役割を学ぶとともに、地域における活動を行う上で求められる基礎的な知識や活動の実際について学ぶ。具体的には、地域母子保健の基本である地域母子保健の考え方、母子の健康にかかわる因子、統計にみる母子保健の動向や母子保健にかかわる制度から見る母子保健の動向と課題、母子保健行政のしくみおよび母子保健にかかわる制度を通して母子保健行政の体系について理解を深める。また、おもな母子保健施策として健やか親子21(第2次)はじめ10項目の制度、地域のさまざまな場における助産師の役割を 地域母子保健活動の実際を産前の地域母子保健活動、産後の地域母子保健活動、特定の状況における地域母子保健活動について学習する。						
【授業の到達目標】					評価方法	
					①	②
1 地域母子保健の基本(地域母子保健の考え方、母子の健康にかかわる因子)について述べることができる。					○	○
2 母子保健の動向と課題について説明することができる					○	○
3 母子保健行政の体系について説明することができる。					○	○
4 地域母子保健活動の基盤について説明することができる。					○	○
5 地域母子保健活動の実際について述べることができる。					○	○
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	第1章 地域母子保健の基本 A 地域母子保健の考え方 1 地域母子保健の概念 2 地域母子保健活動の意義 3 地域における助産師の役割 4 地域における多職種連携 B 母子の健康にかかわる因子 1 社会 2 自然環境 3 文化 4 地域ネットワーク 5 保健・医療・福祉 6 家族 7 生活行動	間中伴子	予習(90分):テキストの第1章 地域母子保健の基本部分を読み要点をノートにまとめ授業に臨む。わからないところは質問できるように用意する、 復習(90分)::授業の内容と気がついたことなどノートに追記する。課題に取り組む。			
2	第2章 母子保健の動向と課題 A 統計にみる母子保健の動向 1 人口動態統計 2 母体保護統計 B 母子保健に関する課題 1 少子高齢化 2 家族形態の多様化 3 経済格差, 医療の地域格差 4 育児支援の必要性	間中伴子	予習(90分):テキストの該当部分第2章 母子保健の動向と課題を読み要点をノートにまとめ授業に臨む。わからないところは質問できるように用意する、 復習(90分)::授業の内容と気がついたことなどノートに追記する。課題に取り組む。			
3	第3章 母子保健行政の体系 A 母子保健行政のしくみ 1 母子保健行政の動向 2 母子保健にかかわる法律 3 母子保健行政における国・都道府県・市町村の役割 B 母子保健にかかわる制度 1 母子保健制度の概要 2 健康診査 3 保健指導 4 療養支援 5 医療対策 6 予防接種 7 不妊に対する相談と治療費助成 8 ひとり親家庭の支援 9 職域における母子保健 10 女性保護	清水幹子	予習(90分):テキストの該当部分第3章 母子保健行政の体系を読み要点をノートにまとめ授業に臨む。わからないところは質問できるように用意する、 復習(90分)::授業の内容と気がついたことなどノートに追記する。課題に取り組む。			
4	C おもな母子保健施策 1 健やか親子21(第2次) 2 成育医療等の提供に関する施策の総合的 3 少子化対策 4 次世代育成支援対策 5 産前・産後サポート事業と産後ケア事業 6 子育て世代包括支援センター 7 妊産婦のための食生活指針 8 授乳・離乳の支援	清水幹子	予習(90分):テキストの該当部分(おもな母子保健施策)を読み要点をノートにまとめ授業に臨む。わからないところは質問できるように用意する、 復習(90分)::授業の内容と気がついたことなどノートに追記する。課題に取り組む。			
5	第4章 地域母子保健活動の基盤 A 母子保健活動における連携・協働 1 地域包括ケアシステム 2 関係機関との連携と調整	清水幹子	予習(90分):テキストの該当部分(第4章 地域母子保健活動の基盤)を読み要点をノートにまとめ授業に臨む。わからないところは質問できるように用意する、 復習(90分)::授業の内容と気がついたことなどノートに追記する。課題に取り組む。			

6	B 地域のさまざまな場における助産師の役割 1 助産所 2 病院・診療所 3 産後ケア施設 4 周産期母子医療センター 5 市町村保健センター・保健所 6 子育て世代包括支援センター(母子健康包括支援センター) 7 職能団体	清水幹子	予習(90分):テキストの該当部分(地域のさまざまな場における助産師の役割)を読み要点をノートにまとめ授業に臨む。わからないところは質問できるように用意する、 復習(90分):授業の内容と気がついたことなどノートに追記する。課題に取り組む。
7	第5章 地域母子保健活動の実際 A 産前の地域母子保健活動 1 妊婦訪問指導 2 出産準備教育 B 産後の地域母子保健活動 1 新生児訪問指導 2 褥婦訪問指導 3 産後ケア事業 4 育児支援 5 民間組織・自助グループ	清水幹子	予習(90分):テキストの該当部分(第5章 地域母子保健活動の実際)を読み要点をノートにまとめ授業に臨む。わからないところは質問できるように用意する、 復習(90分):授業の内容と気がついたことなどノートに追記する。課題に取り組む。
8	C 特定の状況における地域母子保健活動 1 児童虐待予防 2 メンタルヘルスケア 3 性教育 4 災害時の地域母子保健活動	清水幹子	予習(45分):テキストの該当部分(特定の状況における地域母子保健活動)を読み要点をノートにまとめ授業に臨む。わからないところは質問できるように用意する、 復習(45分):授業の内容と気がついたことなどノートに追記する。課題に取り組む。
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)			アイスブレイク、ビジュランクラウドやDVDを活用する。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○	
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク			
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
提出された課題については、次回授業時に講評・フィードバックを行います。			
【成績の評価方法】			
①課題:90% ②授業内での発言など貢献度10% 合計:100%			
【生成AI利活用(有)】			
生成AIは、文献整理、概念の理解、業務改善案の検討、管理上の意思決定プロセスの整理など、学習支援目的に限り利用を認める。 課題においてAIを利用した場合は、利用したツール名、利用目的、出力をどのように批判的に検討し修正したかを明記すること。			
【ルーブリック評価の活用(有)】			
【履修申請上の条件】			
特になし			
【教科書】	書名	出版社	ISBN
①	助産学講座 10 地域母子保健・国際母子保健 第6版	医学書院	9784260050043
②	母子保健の主なる統計 令和7年刊行	母子衛生研究会	9784938481162
③			
④			
⑤			
⑥			
⑦			
⑧			
【参考書】			
成田伸 助産師基礎教育テキスト 2026年版 第3巻 助産サービス管理 看護協会出版会 9784818029538			
【オープンな教育リソース】			
特になし			
【担当教員の実務経験】			
・清水幹子:助産師、アドバンス助産師、筑波大学博士後期課程在学中、矢島助産院助産師看護学校や助産師学校などで教鞭。小中学校などの性教育実施。ラジオフューズにてセクシャリティや性を語る番組『アイノカタチ.chu』のパーソナリティ。東京都助産師会理事。 ・間中伴子:助産師として大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。			
【オフィスアワー】			
・外部講師の場合は、学務課を通して対応する ・間中 月～金 12:10～13:00			
【教員連絡先】			
・外部講師の場合は、学務課を通して対応する ・間中 tmanaka@g.t-junshin.ac.jp			
【備考】			
この科目では、病院、クリニックと地域において切れ目なく支援をするための重要な役割を果たす助産師の活動の実際を学びます。その幅広い活動範囲の実際を学ぶことで、改めて助産師の役割の奥深さを知る			

授業科目名	地域母子保健演習	担当教員名	西脇裕子 間中伴子 窪田裕子			
コード		区分 (必修・選択)	必修 ○	選択		
年次/期間	前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。					
○	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。					
○	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。					
○	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。					
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。					
【授業の概要】						
地域の母子保健の現状を理解するために、実習する予定の地域の母子に焦点をあてた地区診断を行い、フィールドの分析、様々な社会資源などの内容について学習する。市町が行う母子保健事業を通して、地域における健康支援の実際を学ぶ。また、母子とその家族の健康状態を地域特性に関連付けてアセスメントし、助産師の視点に基づいた母子保健におけるヘルスプロモーションを考察していく。具体的には、八王子市をモデル地域として、統計データや母子保健施策、少子化・家族形態の変化など地域の動向と課題を分析し、グループワークでまとめ発表する。さらに、妊婦訪問指導や新生児訪問、産後ケア事業など地域で実施されている母子保健活動を調査し、妊娠期からの切れ目ない支援の実際を理解する。加えて、DV・児童虐待防止の取り組みや災害時の母子保健支援についても学び、地域母子保健における課題と支援の方向性を多角的に考察する。						
【授業の到達目標】						
評価方法						
① ② ③ ④ ⑤						
1	地域の母子保健に関する統計・施策・社会背景を分析し、地域特性を踏まえた地区診断を行える	○				
2	地域で実施されている母子保健事業(妊婦訪問・新生児訪問・産後ケア等)の内容と役割を説明できる	○				
3	妊娠期からの切れ目ない支援の実際を理解し、地域資源を活用した支援モデルを提案できる	○				
4	DV・児童虐待防止の地域の取り組みを理解し、母子の安全確保に向けた助産師の役割を説明できる	○				
5	災害時の地域母子保健活動について理解し、母子の脆弱性を踏まえた支援の優先度と対応を説明できる		○			
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	八王子市における地域母子保健の動向と課題について調べるまとめる。発表できるように準備をする(3~4人1グループのGW) 【テーマ】 A・B・Cのいずれかのテーマに焦点を当てて調べる。 A 統計にみる母子保健の動向 1 人口動態統計 2 母体保護統計 B 母子保健に関する課題 1 少子高齢化 2 家族形態の多様化 3 経済格差, 医療の地域格差 4 育児支援の必要性 C おもな母子保健施策 1 健やか親子21(第2次) 2 成育医療等の提供に関する施策の総合的 3 少子化対策 4 次世代育成支援対策 5 産前・産後サポート事業と産後ケア事業 6 子育て世代包括支援センター 7 妊産婦のための食生活指針 8 授乳・離乳の支援	西脇裕子	予習・復習(45分) 予習:個人ワークとしてテーマについて情報収集する。 復習:GWの結果について気がついたことなどまとめる。			
2		西脇裕子	予習・復習(45分) 予習:グループメンバーが持ち寄った情報や資料について個人的に考察しグループのディスカッションに臨む。 復習:GWの結果について個人のノートにまとめる。			
3		西脇裕子	予習・復習(45分) 予習:発表に向けた準備とGWの課題を提案する準備を行う。 復習:発表準備			
4	発表(1グループ3~4人)	西脇裕子	予習・復習(45分) 予習:発表に向け担当箇所の個人作業を進める。 復習:発表、GWの振り返りを行う			
5	八王子市の地域母子保健活動の実際について調べる A 産前の地域母子保健活動 1 妊婦訪問指導 2 出産準備教育 B 産後の地域母子保健活動 1 新生児訪問指導 2 褥婦訪問指導 3 産後ケア事業 4 育児支援	西脇裕子	予習・復習(45分) 予習:個人ワークとしてテーマについて情報収集する。 復習:GWの結果について気がついたことなどまとめる。発表準備を行う。			
6	八王子市の地域母子保健活動の実際について調べたことを発表する	西脇裕子・間中伴子・窪田裕子	予習・復習(45分) 予習:発表に向け担当箇所の個人作業を進める。 復習:発表、GWの振り返りを行う			
7	八王子市の地域における「妊娠期からの切れ目ない支援」について調べる	西脇裕子	予習・復習(45分) 予習:個人ワークとしてテーマについて情報収集する。 復習:GWの結果についてまとめる。			
8			予習・復習(45分) 予習:グループメンバーが持ち寄った情報や資料について個人的に考察しグループのディスカッションに臨む。 復習:GWの結果について個人のノートにまとめる。発表の担当部分の見直しを行い、発表準備を行う。			
9	GWの結果を発表	西脇裕子・間中伴子・窪田裕子	予習・復習(45分) 予習:発表に向け担当箇所の個人作業を進める。 復習:発表、GWの振り返りを行う			

10			予習・復習(45分) 予習:個人ワークとしてテーマについて情報収集する。 復習:GWの結果についてまとめる。
11	八王子市におけるDV・児童虐待防止の取り組みや課題について調べる	西脇裕子	予習・復習(45分) 予習:グループメンバーが持ち寄った情報や資料について個人的に考察しグループのディスカッションに臨む。 復習:GWの結果について個人のノートにまとめる。発表の担当部分の見直しを行い、発表準備を行う。
12	八王子市におけるDV・児童虐待防止の取り組みや課題について調べたことを発表する	西脇裕子・間中伴子・窪田裕子	予習・復習(45分) 予習:個人ワークとしてテーマについて情報収集する。 復習:GWの結果についてまとめる。
13			予習・復習(45分) 予習:個人ワークとしてテーマについて情報収集する。 復習:GWの結果についてまとめる。
14	八王子市の災害時の地域母子保健活動について調べる。	西脇裕子	予習・復習(45分) 予習:グループメンバーが持ち寄った情報や資料について個人的に考察しグループのディスカッションに臨む。 復習:GWの結果について個人のノートにまとめる。発表の担当部分の見直しを行い、発表準備を行う。
15	八王子市の災害時の地域母子保健活動について調べる。	西脇裕子	予習・復習(45分) 予習:発表に向け担当箇所の個人作業を進める。 復習:発表、GWの振り返りを行う
【アクティブラーニング】			チェック欄
①:PBL(課題解決型学習)			アイスブレイク、動画の活用
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク			○
⑤:プレゼンテーション			○
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
・課題に対するフィードバックは、次回の講義に行う。			
【成績の評価方法】			
①課題80% ②授業内での発言等授業参加度20% 合計:100%			
【生成AI利活用(有)】			
生成AIは、文献整理、概念の理解、業務改善案の検討、管理上の意思決定プロセスの整理など、学習支援目的に限り利用を認める。 課題においてAIを利用した場合は、利用したツール名、利用目的、出力をどのように批判的に検討し修正したかを明記すること			
【ルーブリック評価の活用(有)】			
【履修申請上の条件】			
特になし			
【教科書】	書名	出版社	ISBN
①	助産学講座 10 地域母子保健・国際母子保健 第6版	医学書院	9784260050043
②	母子保健の主なる統計 令和7年刊行	医学書院	9784938481162
③			
④			
			⑤
			⑥
			⑦
			⑧
【参考書】			
成田伸 助産師基礎教育テキスト 2026年版 第3巻 助産サービス管理 看護協会出版会 9784818029538			
【オープンな教育リソース】			
特になし			
【担当教員の実務経験】			
西脇:助産師として、総合病院外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。 間中:助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。 窪田:助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。			
【オフィスアワー】			
間中、窪田、西脇 :月～金 12:10～13:00			
【教員連絡先】			
西脇:yunishiwaki@g.t-junshin.ac.jp 間中:tmanaka@g.t-junshin.ac.jp 窪田:yukubota@g.t-junshin.ac.jp			
【備考】			
八王子市の地域母子保健の特徴を調べることは、病院内だけでなく地域での支援も担う存在として地域のニーズに即した支援の在り方を学ぶ基礎力を養うことになりまう。また、地域特性を踏まえたアセスメント力の向上や多職種連携の理解と実践にもつながります。そして、地域保健活動や母子保健統計は、国家試験でも頻出のテーマです。			

授業科目名	助産過程演習	担当教員名	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子			
コード		区分 (必修・選択)	必修 ○	選択		
年次/期間	前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
◎	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。 ② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。 ③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。 ④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。

【授業の概要】  
対象となる母児やその家族の特性を理解し、助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実習を通して、妊娠期、分娩期、産褥・新生児期の事例を用いて助産過程の展開の振り返り、助産診断・実践・評価能力を修得する。具体的には、助産過程の概念と助産師の役割、助産診断の特徴や診断類型を理解し、看護過程との関連を整理する。妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期それぞれのマタニティ診断の特徴と着目点を学び、診断名のつけ方やケア計画の立案方法を事例を通して実践的に習得する。さらに、順調な経過の妊婦から要支援事例、分娩進行中の多様な場面まで、グループワークや個人ワーク、発表を通して助産過程の展開を深く理解し、母児の状態に応じた診断とケアを一貫して行える能力を養う。

【授業の到達目標】		評価方法				
		①	②	③	④	⑤
1 助産過程の概念と助産診断の特徴を理解し、看護過程との違いを説明できる。	○					
2 妊娠期の事例を用いて、マタニティ診断名を適切に導き、根拠に基づいたケア計画を立案できる。	○					
3 分娩期の進行状況に応じて、複数の場面(分娩開始6時間後・陣痛減弱時・分娩直後など)でマタニティ診断とケア計画を展開できる。	○					
4 産褥期および新生児期の事例に対して、母児の状態を総合的にアセスメントし、適切な助産診断とケア計画を立案できる。	○					
5 グループワークや発表を通して、助産過程の展開を他者に説明し、根拠に基づく助産診断・ケア計画を論理的に共有できる。		○				

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	【講義】 第1章 1. 助産過程とは 2. 助産師の役割と助産過程	間中伴子	予習・復習(45分)：助産過程、助産師の役割と助産過程、助産診断の特徴と診断類型について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめる。
2	【講義】 3. 助産診断の特徴と診断類型 4. 看護過程と助産過程	間中伴子	予習・復習(45分)：助産過程、助産師の役割と助産過程、助産診断の特徴と診断類型について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめる。
3	【講義】 第2章 Ⅰ. 妊娠期のマタニティ診断の特徴と着目点 Ⅱ. 妊娠期の診断累計と診断名のつけ方 Ⅲ. 事例にみる妊娠期のマタニティ診断の実際とケア計画 1 経過診断におけるケア計画 2 健康生活診断におけるケア計画	間中伴子	予習・復習(45分)：助産過程、助産師の役割と助産過程、助産診断の特徴と診断類型について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめる。
4	【講義・個人ワーク】 ・順調な経過をたどっている妊婦事例のマタニティ診断の実際とケア計画 ・要経過観察・要支援と診断した初妊婦のマタニティ診断とケア計画	間中伴子	予習・復習(45分)：助産過程、助産師の役割と助産過程、助産診断の特徴と診断類型について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめる。
5	【講義・GW】 ・順調な経過をたどっている妊婦事例のマタニティ診断の実際とケア計画	間中伴子	予習・復習(45分) テキストの「経過診断の診断類型と診断名のつけ方」の部分を読み要点をノートにまとめておく。わからないことは質問できるように準備しておく。授業後は学んだことをノートに追記しまとめる。
6	【GW・課題提出】 ・順調な経過をたどっている妊婦事例のマタニティ診断の実際とケア計画	間中伴子	予習・復習(45分)：助産過程、助産師の役割と助産過程、助産診断の特徴と診断類型について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめる。
7	【講義】 第3章 分娩期のマタニティ診断 Ⅰ 分娩期のマタニティ診断の特徴と着目点 Ⅱ 分娩期の診断累計と診断名のつけ方 Ⅲ. 事例にみる分娩期のマタニティ診断の実際とケア計画 1 経過診断におけるケア計画 2 健康生活診断におけるケア計画	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子	予習・復習(45分)：助産過程、助産師の役割と助産過程、助産診断の特徴と診断類型について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめる。
8	【GW】 第3章 分娩期のマタニティ診断 Ⅰ 分娩期のマタニティ診断の特徴と着目点 Ⅱ 分娩期の診断累計と診断名のつけ方 Ⅲ. 事例にみる分娩期のマタニティ診断の実際とケア計画 1 経過診断におけるケア計画 2 健康生活診断におけるケア計画		予習・復習(45分)：助産過程、助産師の役割と助産過程、助産診断の特徴と診断類型について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめる。
9	【GW】 ・分娩開始6時間後のマタニティ診断とケア計画 ・陣痛が弱くなった時点のマタニティ診断とケア計画 ・陣痛再来から分娩終了までの状態と分娩終了直後のマタニティ診断とケア計画	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子	予習・復習(45分)：助産過程、助産師の役割と助産過程、助産診断の特徴と診断類型について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめる。
10	【GW】 ・分娩開始6時間後のマタニティ診断とケア計画 ・陣痛が弱くなった時点のマタニティ診断とケア計画 ・陣痛再来から分娩終了までの状態と分娩終了直後のマタニティ診断とケア計画		予習・復習(45分) 分娩期の事例展開について予習する。GWに向けて自分なりの意見をまとめGWに参加する。GW後は、学んだことや疑問に思ったことを調べノートにまとめる。
11	【発表】 ・分娩開始6時間後のマタニティ診断とケア計画 ・陣痛が弱くなった時点のマタニティ診断とケア計画 ・陣痛再来から分娩終了までの状態と分娩終了直後のマタニティ診断とケア計画	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子	予習・復習(45分) 分娩期の事例展開について予習する。発表後は、他のグループの発表を聞いて学んだことや疑問に思ったことを調べノートにまとめる。

12	【発表】 ・分娩開始6時間後のマタニティ診断とケア計画 ・陣痛が弱くなった時点のマタニティ診断とケア計画 ・陣痛再来から分娩終了までの状態と分娩終了直後のマタニティ診断とケア計画	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子	予習・復習：（45分）分娩期の事例展開について予習する。発表後は、他のグループの発表を聞いて学んだことや疑問に思ったことを調べノートにまとめる。			
13	【講義】 第4章 産褥期のマタニティ診断		予習・復習：（45分）第4章 産褥期のマタニティ診断の事例展開について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめる。			
14	【講義】 第5章 新生児期のマタニティ診断	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子	予習・復習：（45分）第5章 新生児期のマタニティ診断の事例展開について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。			
15	【講義】 第6章 産褥期のマタニティ診断		予習・復習（45分）：第6章 産後期のマタニティ診断を読み事前に理解を深められるようわからないところを調べる又は質問にまとめ授業に備える。授業後は、学んだことをノートにまとめる。			
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫		
①:PBL（課題解決型学習）				アイスブレイク、動画の活用		
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）			○			
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク			○			
⑤:プレゼンテーション			○			
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
・課題に対するフィードバックは、次回の講義に行う。						
【成績の評価方法】						
①課題80% ②授業内での発言等授業参加度20% 合計:100%						
【生成AI活用（有）】 生成AIは、文献整理、概念の理解、業務改善案の検討、管理上の意思決定プロセスの整理など、学習支援目的に限り利用を認める。 課題においてAIを利用した場合は、利用したツール名、利用目的、出力をどのように批判的に検討し修正したかを明記すること						
【ルーブリック評価の活用（有）】						
【履修申請上の条件】						
特になし						
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
	① 実践 マタニティ診断 第6版	医学書院	9784260062633	⑤		
	② 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [1]妊娠期 第6版	医学書院	9784260042086	⑥		
	③ 助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期 第6版	医学書院	9784260042109	⑦		
	④ 助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3]新生児期・乳幼児期 第6版	医学書院	9784260042192	⑧		
【参考書】						
・江藤宏美 助産師基礎教育テキスト 2026年版 第6巻 産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア 日本看護協会出版会 9784818029552 ・森 恵美 助産師基礎教育テキスト 2026年版 第4巻 妊娠期の診断とケア 日本看護協会出版会 9784818029545						
【オープンな教育リソース】						
特になし						
【担当教員の実務経験】						
間中:助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。 窪田:助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。 西脇:助産師として、総合病院外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。						
【オフィスアワー】						
間中 :月～金 12:10～13:00						
【教員連絡先】						
間中:tmanaka@g.t-junshin.ac.jp 窪田:yukubota@g.t-junshin.ac.jp 西脇:yunishiwaki@g.t-junshin.ac.jp						
【備考】						
助産過程の展開技術は、助産ケアを行う上で必須です。助産ケアの根拠をつき窮する習慣が身につけられるよう習得できるように頑張らしましょう。						

授業科目名	助産管理学	担当教員名	間中伴子 後藤淳子 今村 理恵子			
コード		区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	○年次/前期 or 後期	2単位/30時間/講義	2単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。					
	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。					
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。					
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。					
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。					

【授業の概要】 429

助産管理の基本概念を学び助産業務の特性と管理過程を理解する。また、助産師として職業倫理について理解を深める。具体的には、助産管理の概念や関係法規、周産期の医療事故と予防対策、助産所・診療所及び産科病棟の管理運営について学修するとともに、東京都の周産期管理システムについても理解を深める。さらに、災害時の助産管理の在り方についても学ぶ。他、助産所における助産管理として、助産所に関する関係法規、助産所の安全管理、助産所の経営、医療機関との連携、オープンシステムなど学ぶ。また、助産外来・院内助産・周産期医療における連携・協働周産期医療システム、地域における助産管理、地域/多職種との連携と助産師の役割、地域包括ケアシステム、子育て世代包括支援センター、地域における助産所の活動女性の健康と助産師をテーマに地域における助産師の役割、連携、周産期における医療安全の視点から周産期のリスクマネジメント、災害とリスクマネジメント災害対策・支援活動についても学修する。

【授業の到達目標】	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 管理の基本概念を述べることができる。	○				
2 助産実践の場の違いによる管理の特性を説明できる。		○			
3 助産管理に関連する法規、社会保障制度を説明できる。		○			
4 助産所開設に必要な書類や施設の準備について説明できる。		○			
5 地域における周産期医療体制について述べるができる。		○			

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	第1章 助産管理の基本と助産業務管理 A 助産管理の基本と助産業務管理の過程 1 助産管理と助産業務管理 2 組織の目標管理とその設定 3 目標管理の実践プロセス 4 業務計画の策定と評価	後藤淳子	予習 (45分) 助産管理の概念、助産所における助産管理について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習 (45分) 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
2	第6章 助産所における助産業務管理 A 助産所の管理・運営 1 助産所の特徴 2 助産所の開設と環境・設備・備品 3 助産所管理の基本 4 医療機関との連携	今村 理恵子	予習 (90分) 助産所における助産業務管理について該当ページを読み、予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習 (90分) 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
3	B 助産所の管理に関する法規 1 助産所の定義 2 助産所の管理者とその義務 3 助産所の構造と設備 4 助産所の広告 5 助産所に対する監督	今村 理恵子	予習 (90分) 助産所の管理に関する法規について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習 (90分) 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
4	第3章 周産期医療体制と地域連携 A 周産期医療体制 1 周産期医療体制の概要 2 周産期医療ネットワーク B チーム医療と職種間・地域の連携 1 周産期医療のオープンシステムとセミオープンシステム 2 地域事情に応じた周産期医療連携システムの構築 3 開業助産師と周産期センターとのオープンシステムのモデル事業 4 開業助産師と周産期センターとのオープンシステム実現の課題 5 周産期医療のオープンシステムとセミオープンシステムの展望	今村 理恵子	予習 (90分) 周産期医療体制と地域連携について予習する。 復習 (90分) 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
5	第1章 助産管理の基本と助産業務管理 B 助産業務管理の方法 1 組織管理 2 書類管理 3 財務管理 4 業務の質管理 5 他部門・地域との連携	後藤淳子	予習 (90分) 周産期医療を担う施設における助産管理の基本と助産業務管理について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習 (90分) 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
6	C 助産業務管理と医療経済 1 医療保険制度と助産業務 2 助産業務と診療報酬 3 分娩費用・健康診査にかかわる費用	後藤淳子	予習 (90分) 助産業務管理と医療経済について調べ自己ノートにまとめ予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習 (90分) 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。

7	<p>第2章 関係法規と助産師の義務・責任</p> <p>A 関係法規</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療法</li> <li>2 保健師助産師看護師法（保助看法）</li> <li>3 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律</li> <li>4 母子保健法</li> <li>5 母体保護法</li> <li>6 児童福祉法</li> <li>7 地域保健法</li> <li>8 戸籍法</li> </ol>	間中 伴子	<p>予習（90分）関係法規と助産師の義務・責任について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。</p> <p>復習（90分）講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。</p>
8	<ol style="list-style-type: none"> <li>9 刑法</li> <li>10 労働基準法</li> <li>11 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律（育児介護休業法）</li> <li>12 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（配偶者暴力防止法、DV防止法）</li> <li>13 母子及び父子並びに寡婦福祉法（母子父子寡婦法）</li> <li>14 健康保険法</li> <li>15 性同一性障害の性別の取扱いの特例に関する法律（性同一性障害特例法、GID特例法）</li> <li>16 児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法）</li> <li>17 少子化社会対策基本法</li> <li>18 男女共同参画社会基本法</li> <li>19 生活保護法</li> <li>20 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律（男女雇用機会均等法）</li> <li>21 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）</li> </ol>	間中 伴子	<p>予習（90分）関係法規と助産師の義務・責任について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。</p> <p>復習（90分）講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。</p>
9	<p>B 助産師の法的責任と義務</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 応召</li> <li>2 証明書の交付</li> <li>3 助産録の記載</li> <li>4 届出</li> <li>5 守秘義務</li> </ol>	間中 伴子	<p>予習（90分）災害とリスクマネジメント、周産期医療システム下における助産師の活動について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。</p> <p>復習（90分）講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。</p>
10	<p>B 助産師の法的責任と義務</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 応召</li> <li>2 証明書の交付</li> <li>3 助産録の記載</li> <li>4 届出</li> <li>5 守秘義務</li> </ol>	今村 理恵子	<p>予習（90分）災害とリスクマネジメント、周産期医療システム下における助産師の活動について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。</p> <p>復習（90分）講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。</p>
10	<p>第3章 周産期医療体制と地域連携</p> <p>A 周産期医療体制</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 周産期医療体制の概要</li> <li>2 周産期医療ネットワーク</li> </ol>	後藤淳子	<p>予習（90分）周産期医療体制と地域連携について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。</p> <p>復習（90分）講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。</p>
11	<p>B チーム医療と職種間・地域の連携</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 周産期医療のオープンシステムとセミオープンシステム</li> <li>2 地域事情に応じた周産期医療連携システムの構築</li> <li>3 開業助産師と周産期センターとのオープンシステムのモデル事業</li> <li>4 開業助産師と周産期センターとのオープンシステム実現の課題</li> <li>5 周産期医療のオープンシステムとセミオープンシステムの展望</li> </ol>	今村 理恵子	<p>予習（90分）チーム医療と職種間・地域の連携について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。</p> <p>復習（90分）講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。</p>
12	<p>第4章 助産に関する医療安全と危機管理</p> <p>A 助産師が行う安全対策と医療事故防止</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 安全対策</li> <li>2 医療事故防止</li> </ol> <p>B 災害対策</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 平時の災害への備えと訓練</li> <li>2 妊産婦・母子・女性への災害に対する教育</li> </ol>	後藤淳子	<p>予習（90分）助産業務と医療経済について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。</p> <p>復習（90分）講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。</p>
13	<p>第5章 場に応じた助産業務管理</p> <p>A 周産期棟・混合病棟の管理</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護体制</li> <li>2 労務管理</li> <li>3 診療情報の提示と開示</li> <li>4 継続的な援助システム</li> <li>5 快適な出産環境のための産科病棟・外来のアメニティ</li> </ol>	板橋	<p>予習（90分）周産期棟・混合病棟の管理について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。</p> <p>復習（90分）講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。</p>
14	<p>C 助産師外来の管理</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 助産師外来</li> <li>2 母乳外来</li> <li>3 そのほかの専門外来</li> </ol>	板橋	<p>予習（90分）について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。</p> <p>復習（90分）講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。</p>
15	<p>B 院内助産・院内助産院の管理</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 院内助産システムの定義</li> <li>2 院内助産院の業務管理</li> <li>3 院内助産院の体制</li> <li>4 院内での連携</li> </ol>	間中 伴子	<p>予習（90分）助産師及び助産師の業務に関わる法と責任について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。</p> <p>復習（90分）講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。</p>

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫																													
①:PBL (課題解決型学習)		・助産所・病院・地域連携などの管理場面を題材に、少人数で課題分析や意思決定を行う演習を取り入れ、管理者としての視点を養う。																													
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	・医療安全や関係法規に関する内容では、事例を用いてリスク要因の抽出や対応策の検討を行い、法的責任と安全管理の理解を深める。																													
③:ディスカッション・ディベート		・周産期医療体制や地域連携について、地域特性を踏まえた連携モデルを学生同士で比較・検討し、助産師の役割を主体的に考察する機会を設ける。																													
④:グループワーク	○	・助産所開設や業務管理に関する講義では、必要書類や設備要件を整理し、開設計画の作成を通して管理運営の実際を理解する。																													
⑤:プレゼンテーション		・災害時の助産管理について、災害シナリオを用いた簡易グループワークを行い、限られた資源下での支援体制や判断の在り方を検討する。																													
⑥:実習・フィールドワーク																															
【課題のフィードバック】																															
提出された課題については、次回授業時に講評・フィードバックを行います。																															
【成績の評価方法】																															
①課題:20%																															
②定期試験:80%																															
合計:100%																															
【生成AI利活用 ( 有 )】																															
生成AIは、文献整理、概念の理解、業務改善案の検討、管理上の意思決定プロセスの整理など、学習支援目的に限り利用を認める。																															
助産管理に関わる臨床判断・倫理判断・個人情報を含む内容をAIに入力することは禁止する。																															
課題においてAIを利用した場合は、利用したツール名、利用目的、出力をどのように批判的に検討し修正したかを明記すること。																															
AIの出力をそのまま使用し、管理者としての根拠・判断過程・独自の考察が確認できない場合は評価の対象としない。																															
AIの利用は、助産管理者として求められる情報リテラシー・倫理性・説明責任を身につけるための一手段として位置づける。																															
【ルーブリック評価の活用 ( 有 )】																															
【履修申請上の条件】																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>書名</th> <th>出版社</th> <th>ISBN</th> <th>書名</th> <th>出版社</th> <th>ISBN</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 助産学講座 10 助産管理 第6版</td> <td>医学書院</td> <td>9784260047098</td> <td>⑤</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>② 助産所開業マニュアル 2021—開設・管理・運営— (2021年版)</td> <td>株式会社日本助産師会出版</td> <td>9784905023364</td> <td>⑥</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③ 新版 助産師業務要覧 第4版 [I 基礎編] 2026年版</td> <td>株式会社日本助産師会出版</td> <td>9784818029583</td> <td>⑦</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④</td> <td></td> <td></td> <td>⑧</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN	① 助産学講座 10 助産管理 第6版	医学書院	9784260047098	⑤			② 助産所開業マニュアル 2021—開設・管理・運営— (2021年版)	株式会社日本助産師会出版	9784905023364	⑥			③ 新版 助産師業務要覧 第4版 [I 基礎編] 2026年版	株式会社日本助産師会出版	9784818029583	⑦			④			⑧			
書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN																										
① 助産学講座 10 助産管理 第6版	医学書院	9784260047098	⑤																												
② 助産所開業マニュアル 2021—開設・管理・運営— (2021年版)	株式会社日本助産師会出版	9784905023364	⑥																												
③ 新版 助産師業務要覧 第4版 [I 基礎編] 2026年版	株式会社日本助産師会出版	9784818029583	⑦																												
④			⑧																												
【参考書】																															
看護六法 令和7年版 新日本法規出版 9784788294769																															
助産業務ガイドライン2024 株式会社日本助産師会出版 9784905023395																															
遠藤俊子 院内助産システムガイドブック 産科医と助産師の連携・協働の実際 医歯薬出版株式会社 9784263235393																															
今中 雄一「病院」の教科書 第2版 医学書院 9784260051064																															
小井土 雄一災害支援における多職種連携 医学書院 9784260057530																															
成田 伸 助産師基礎教育テキスト 2026年版 第3巻 助産サービス管理 看護協会出版会 9784818029538																															
【オープンな教育リソース】																															
特になし																															
【担当教員の実務経験】																															
今村 理恵子:助産師として病院勤務を経て助産院で活動している。経験を生かした講義を行う。																															
桐生久美子:助産師として大学病院総合周産期センター看護師長の経験を生かした講義を行う。																															
内野夏希:助産師として病院に勤務、大学病院総合周産期センター副看護師長を務めている経験を生かした講義を行う。																															
間中:助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。																															
【オフィスアワー】																															
・外部講師の場合は、学務課を通して対応する																															
・間中 月～金 12:10～13:00																															
【教員連絡先】																															
・外部講師の場合は、学務課を通して対応する																															
・間中 tmanaka@g.t-junshin.ac.jp																															
【備考】																															
助産管理の基本と、助産管理の実際(含医療事故防止・対応)を病院・助産院等の助産活動を通して理解しましょう。実習の場では、管理の視点も忘れず見ることも意識しましょう。																															

授業科目名	助産学実習 I (妊娠期)	担当教員名	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子 非常勤講師				
コード	区分 (必修・選択)	必修	○	保健師課程 必修		選択	
		年次/期間	後期	単位/時間数/形態	2単位/90時間/実習		
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
◎	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。						
○	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。						
○	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。						
○	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。						
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。						
【授業の概要】	妊婦の健康診査、保健指導を通して、妊婦と胎児の健康状態や健康課題を診断する能力、妊娠経過の正常・異常を診断するための能力、妊婦とその家族のセルフケア能力を高める助産実践能力を修得する。集団指導である健康教育については、妊娠期にある対象の助産診断を行い、ウェルネスの看護を踏まえた保健指導について実践する。具体的には、妊婦、胎児の健康状態を問診、外診、内診、臨床検査などの診断技術を用いた母体の健康状態の診断、ME 機器、外診などによる胎児および付属物の診断を行う。妊婦のケアと保健指導については、妊婦の身体的変化への適応を促すケア、妊婦の心理的、社会的変化への適応を促す支援、妊娠期の母親役割取得を促進するための支援を実施する。さらには、妊婦のセルフケア能力の診断と支援、妊婦とその家族の意思決定を尊重した支援として妊婦とその家族の意思決定の支持、パートナーや家族から適切なサポートが受けられるための支援を実施する。そして、妊娠期における母乳育児を行うための準備と指導、妊婦とその家族の役割適応を促すための支援として出産準備教育、産後の生活調整を行うための支援を実施する。						
【授業の到達目標】 例					評価方法		
1 妊娠期の経過の診断を実施できる。	○	○		○			
2 妊娠期の身体的・精神的・社会的側面を統合し、ケアと指導の実施ができる。	○	○	○	○			
3 妊娠期のセルフケア能力の診断と支援を実施できる。	○	○		○			
4 妊娠期の意志決定を尊重し、個別性を考慮した支援を実施できる。	○	○		○			
5 妊娠期から母乳育児に向けて準備を整えるための指導とケアが実施できる。	○	○		○			
6 家族の役割適応を促すための支援が実施できる。	○	○		○			
【授業計画】							
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1							
2	1. 妊婦、胎児の健康状態の診断 1) 問診、外診、内診、臨床検査などの診断技術を用いた母体の健康状態の診断 2) ME 機器、外診などによる胎児および付属物の診断	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子 非常勤講師	事前課題: 以下の既習内容のまとめを行い実習に備える。(300分) 1, 妊娠(妊娠の成立、妊娠の維持機構) 2, 妊娠による母体の変化(生殖器の変化、全身の変化、免疫能の特性) 3, 妊娠中の栄養(母体の健康、胎児の健康、妊娠合併症と母体の栄養) 4, 胎児(胎児の発育、臓器の成熟と期間形成期母体の健康、胎児の発育) 5, 胎児付属物(卵膜の構造と機能、羊水の生成と機能、臍帯の構造と機能、胎盤の構造と機能) 6, 分娩の基礎(分娩に関する主な概念、分娩の三要素、定義) 7, 新生児の特徴(身体的特徴、生理的特徴、行動上の特徴) 8, 乳幼児の特徴(身体的特徴、生理的特徴、心理・社会的特徴と行動上の特徴)  実習開始後は、日々以下の予習と復習を行う。 予習: 受け持った事例の助産診断に基づいたケア計画と実施するために必要な知識の確認(90分×10日間=900分) 復習: 受け持った事例の助産診断に基づいたケア計画と実施したことの振り返り、記録をまとめる(60×10日間分=600分)				
3	2. 妊婦のケアと保健指導 1) 妊婦の身体的変化への適応を促すケア 2) 妊婦の心理的、社会的変化への適応を促す支援 3) 妊娠期の母親役割取得を促進するための支援						
4	3. 妊婦のセルフケア能力の診断と支援						
5	4. 妊婦とその家族の意思決定を尊重した支援 1) 妊婦とその家族の意思決定の支持 2) パートナーや家族から適切なサポートが受けられるための支援						
6	5. 母乳育児を行うための準備と指導 1) 母乳栄養選択への動機づけ 2) 妊娠各期に応じた乳房ケアについての指導						
7	6. 妊婦とその家族の役割適応を促すための支援 1) 出産準備教育 2) 産後の生活調整を行うための支援						
8							
9							
10							
【アクティブラーニング】							チェック欄
①:PBL(課題解決型学習)			○	妊婦健診の観察をもとにした分析ワーク、妊婦とのコミュニケーション技術の振り返り、保健指導のミニロールプレイ、セルフケア支援プラン作成、家族支援の視点を取り入れたケース検討などを取り入れ、妊娠期の助産診断とケアの理解を深める。また、Google Classroom を活用して実習中の学びを共有し、エビデンスに基づく助産実践を促進する。			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○				
③:ディスカッション・ディベート			○				
④:グループワーク			○				
⑤:プレゼンテーション			○				
⑥:実習・フィールドワーク			○				
【課題のフィードバック】	実習記録への日々の短時間フィードバック、Google Classroom を活用した週次フィードバック、ロールプレイ後のピアフィードバック、ミニカンファレンスによる口頭フィードバックなどを組み合わせ、学生が実習中に学びを即時に修正・深化できるよう支援する。また、実習終了時には強みと課題を整理した総括フィードバックを行い、次の学習につなげる。						
【成績の評価方法】	①実習記録 60% ②助産実践 20% ③実習レポート 10% ④実習態度 10% 合計:100%						
【生成AI利活用(有)】	1)成績評価の対象となるレポートや実習記録等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文)がわかるように記載してください。 2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。 3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。						
【ルーブリック評価の活用(無)】							
【履修申請上の条件】	助産の基礎科目、助産診断・技術学を履修していることが望ましい。						
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN	
①	実践 マタニティ診断 第6版	医学書院	9784260062633	⑤			
②	助産学講座 6 助産診断・技術学 II 第6版 [1]妊娠期	医学書院	9784260042086	⑥			
③	今日の助産 改訂第4版	南江堂	9784524246250	⑦			
④	マタニティ診断ガイドブック 第7版	医学書院	9784260062404	⑧			

<p><b>【参考書】</b> 産婦人科診療ガイドライン—産科編 2023—日本産科婦人科学会編集・監修 9784907890285 医療情報科学研究所(編集)病気がみえる10 産科、Medic Media. 9784896327137</p>
<p><b>【オープンな教育リソース】</b> 間中、窪田、西脇:月～金12:00～13:00(学内日)</p>
<p><b>【担当教員の実務経験】</b> 間中:助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。 窪田:助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。 西脇:助産師として、総合病院外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。</p>
<p><b>【オフィスアワー】</b> 間中:助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。 窪田:助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。 西脇:助産師として、総合病外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。</p>
<p><b>【教員連絡先】</b> 間中:tmanaka@g.t-junshin.ac.jp 窪田:yukubota@g.t-junshin.ac.jp 西脇:ynishiwaki@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p><b>【備考】</b> 事前オリエンテーションに基づいて、自己学習を行う。既習の内容を振り返り、助産師としての自覚をもって主体的に学習して実習に臨む。助産技術を実践するための知識に基づいた特有の技術を習得するために自己練習に励んでほしい。常に社会情勢に関心を持ち深めることに努めてほしい。</p>

授業科目名	助産学実習Ⅱ(分娩期、産褥・新生児期)		担当教員名	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子 非常勤講師						
コード	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択						
		○								
年次/期間	○年次/前期 or 後期		単位/時間数/形態	7単位/315時間/実習						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】									
	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。									
◎	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。									
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。									
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。									
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。									
【授業の概要】										
<p>正常分娩の介助技術の修得、産婦やその家族の主体性を尊重した助産ケアの提供、正常・異常を診断するための実践能力を養う。また、助産ケアの実際を通して、妊産婦のセルフケア能力を高め、新生児の母体外生活の適応をはかる助産実践能力を修得する。主に病院や診療所において、正常な経過をたどる産婦の入院から退院までを受け持ち、助産計画にそって分娩介助を10例実施する。異常分娩に対する応急処置の見学・実施を行い、助産師に必要なアセスメント能力とケアについて理解する。具体的には、分娩経過中の母児の健康状態の判断を診断技術を活用した分娩経過の正常・異常の判断により学ぶ。また母体の健康状態の診断、胎児の健康状態の診断は、胎児心拍数モニタリングの判読と対処方法や胎児予備能力の診断、さらに正常な分娩経過への助産ケアを産婦・家族への分娩支援により学ぶ。分娩の進行を促進し産婦の疲労を最小限にとどめる助産ケア、母児に安全で快適な分娩介助や新生児の胎外生活適応への援助、出生した児の状態の判断とケア、親子の愛着を促すケア、緊急時・異常発生時の対応まで実際の場で学ぶ。</p>										
【授業の到達目標】例										
						評価方法				
						①	②	③	④	⑤
1 分娩経過及び分娩経過中の母児の健康状態の診断ができる。						○	○		○	
2 分娩の進行を正常に保つための助産ケアの実践ができる。						○	○	○	○	
3 母児に安全で快適な分娩介助ができる。						○	○		○	
4 新生児の胎外生活を促進するための援助ができる。						○	○		○	
5 産婦及び家族の新生児に愛着を促す助産ケアの実践ができる。						○	○		○	
6 助産師として持ち備える姿勢を習得できる。						○	○		○	
【授業計画】										
授業計画			担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)						
1	<p>1 . 分娩経過中の母児の健康状態の判断</p> <p>1) 診断技術を活用した分娩経過の正常・異常の判断</p> <p>(1) 分娩三要素と分娩経過の診断・予測</p> <p>(2) 分娩出時間の予測と修正</p> <p>2 ) 母体の健康状態の診断</p> <p>3 ) 胎児の健康状態の診断</p> <p>(1) 胎児心拍数モニタリングの判読と対処方法</p> <p>(2) 胎児予備能力の診断</p>		間中伴子 窪田裕子 西脇裕子 非常勤講師	事前課題:以下の既習内容の復習を行い実習に臨む(300分)						
2	<p>2 . 正常な分娩経過への助産ケア</p> <p>1)産婦・家族への分娩支援</p> <p>(1) 快適さの提供 (2) 安心感の保証</p> <p>(3) 苦痛緩和 (4) 分娩経過に関する情報提供</p> <p>(5) 基本的ニーズの充足 (6) 産婦の質問への適切な対応</p> <p>(7) 胎児の状態の情報提供 (8) 母体の状態の情報提供</p> <p>(9) 情緒的支援 (10)産婦・家族の要望・訴えへの対応</p> <p>(11)産婦の強みの活用</p> <p>2)分娩の進行を促進し産婦の疲労を最小限にとどめる助産ケア</p> <p>(1) 産痛緩和 (2) 基本的ニーズの充足</p> <p>(3) 体位の選択・工夫 (4) 呼吸法・リラックス法</p> <p>(5) 環境</p> <p>3)胎児の健康状態を維持するための助産ケアの実践</p>			<p>1, 妊娠(妊娠の成立、妊娠の維持機構)</p> <p>2, 妊娠による母体の変化(生殖器の変化、全身の変化、免疫能の特性)</p> <p>3, 妊娠中の栄養(母体の健康、胎児の健康、妊娠合併症と母体の栄養)</p> <p>4, 胎児(胎児の発育、臓器の成熟と期間形成期母体の健康、胎児の発育)</p> <p>5, 胎児付属物(卵膜の構造と機能、羊水の生成と機能、臍帯の構造と機能、胎盤の構造と機能)</p> <p>6, 分娩の基礎(分娩に関する主な概念、分娩の三要素、定義)</p> <p>7, 新生児の特徴(身体的特徴、生理的特徴、行動上の特徴)</p> <p>8, 乳幼児の特徴(身体的特徴、生理的特徴、心理・社会的特徴と行動上の特徴)</p> <p>9. 妊娠・分娩・産褥と薬物(薬物の作用と母子への影響、授乳期の薬物摂取と母子への影響)</p>						
3	<p>3 . 母児に安全で快適な分娩介助</p> <p>1)分娩介助の一連の動作</p>			<p>実習開始後は、日々以下の予習と復習を行う。</p> <p>予習:受け持った事例の助産診断に基づいたケア計画と実施するために必要な知識の確認(90分×35日間=3150分)</p> <p>復習:受け持った事例の助産診断に基づいたケア計画と実施したことの振り返り、記録をまとめる(90分×35日間分=3150分)</p>						
4	<p>4 . 新生児の胎外生活適応への援助</p> <p>1)妊娠・分娩経過から出生する児の状態の予測</p> <p>2)出生した児の状態の判断とケア</p> <p>(1)アプガースコアを基準にした観察 (2)保温</p>			<p>分娩介助を行った場合、上記に加え</p> <p>事後学習:受け持ち事例に対して行った助産過程の記録と知識の確認を行う。</p> <p>事前学習:翌日以降の実習に必要な知識を確認し、援助技術を事前練習する。</p> <p>事前・事後学習は、実習時間内の空き時間も利用すること。</p>						
5	<p>5 . 親と子の愛着を促すケア</p> <p>1)バーレビュー 2)早期面会、早期母児接触</p> <p>3)父親の没入感情への支援</p>									
	<p>6 . 緊急時・異常発生時の対応</p> <p>1)ハイリスク因子の査定 2)前早期破水時の観察と対応</p> <p>3)分娩遷延時の助産ケア 4)胎児機能不全の早期発見、観察と対応</p> <p>5)急遂分娩時の介助の実際(吸引・鉗子分娩時の介助、帝王切開術時のケア)</p> <p>6)異常出血時の観察と対応 7)母体搬送の適応</p>									
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫						
①:PBL(課題解決型学習)			○	妊産婦・新生児の観察ポイントをまとめた動画教材						
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○	実習中の“倫理的判断”を支えるケース教材						
③:ディスカッション・ディベート			○							
④:グループワーク			○							
⑤:プレゼンテーション			○							
⑥:実習・フィールドワーク			○							
【課題のフィードバック】										
<p>実習記録への日々の短時間フィードバック、Google Classroom を活用した週次フィードバック、ロールプレイ後のピアフィードバック、ミニカンファレンスによる口頭フィードバックなどを組み合わせ、学生が実習中に学びを即時に修正・深化できるよう支援する。また、実習終了時には強みと課題を整理した総括フィードバックを行い、次の学習につなげる。</p>										

<b>【成績の評価方法】</b>					
①実習記録 60%					
②助産実践 20%					
③実習レポート 10%					
④実習態度 10%					
合計:100%					
<b>【生成AI利活用（有）】</b>					
1)成績評価の対象となるレポートや実習記録等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文)がわかるように記載してください。					
2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。					
3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。					
<b>【ルーブリック評価の活用（無）】</b>					
<b>【履修申請上の条件】</b>					
助産の基礎科目、助産診断・技術学を履修していることが望ましい。					
<b>【教科書】</b>	<b>書名</b>	<b>出版社</b>	<b>ISBN</b>	<b>書名</b>	<b>出版社</b>
①	実践 マタニティ診断 第6版	医学書院	9784260062633	⑤	無痛分娩パーフェクトガイド
②	助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ 第6版 [1]妊娠期	医学書院	9784260042086	⑥	分娩の生理・病態に基づいた頸管熟化と分娩誘発法
③	今日の助産 改訂第4版	南江堂	9784524246250	⑦	助産師基礎教育テキスト 2025年版 第7巻 ハイリスク妊産婦・新生児へのケア
④	マタニティ診断ガイドブック 第7版	医学書院	978-4-260-06240-4	⑧	図表でわかる無痛分娩プラクティスガイド
					メジカルビュー社
					株式会社日本看護協会出版会
					メジカルビュー社
<b>【参考書】</b>					
産婦人科診療ガイドライン—産科編 2023—日本産科婦人科学会編集・監修 9784907890285					
医療情報科学研究所(編集)病気がみえる10 産科、Medic Media. 9784896327137					
<b>【オープンな教育リソース】</b>					
特になし					
<b>【担当教員の実務経験】</b>					
間中:助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。					
窪田:助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。					
西脇:助産師として、総合病院外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
間中、窪田、西脇 学内日 12:10~13:00					
<b>【教員連絡先】</b>					
間中:tmanaka@g.t-junshin.ac.jp					
窪田:yukubota@g.t-junshin.ac.jp					
西脇:ynishiwaki@g.t-junshin.ac.jp					
<b>【備考】</b>					
事前オリエンテーションに基づいて、自己学習を行う。既習の内容を振り返り、助産師としての自覚をもって主体的に学習して実習に臨む。助産技術を実践するための知識に基づいた特有の技術を習得するために					

授業科目名	助産学実習Ⅲ(継続事例)		担当教員名	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子 非常勤講師							
コード	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択							
		○									
年次/期間	後期		1単位/45時間/実習	7単位/315時間/実習							
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】										
○	①	職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。									
○	②	助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。									
○	③	他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。									
○	④	地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。									
○	⑤	助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。									
【授業の概要】											
妊娠中期から産後4か月位まで継続して1事例を受け持ち、継続した助産ケアの実際を通して、対象とその家族へのセルフケア能力を高める助産実践能力を修得する。助産師外来においては、正常妊婦の経過を診断し、QOLの向上のための相談・教育を行える診断技術を修得する。具体的には、産後の母子の正常な経過を促進する援助、生後日数に応じた新生児の診断と援助、褥婦の心理社会的側面の診断と援助、育児の基本行動習得に向けた支援、産後1ヶ月が経過するまでの見通しをもった支援、母乳育児継続のための支援、ハイリスク新生児と児を取り巻く家族に対する援助、産褥期における母親役割、父親役割の獲得に向けた支援、家族関係の再構築を図るための支援を実施する。											
【授業の到達目標】例							評価方法				
							①	②	③	④	⑤
1 継続事例の妊娠期から産後の母子の正常な経過を促進する援助を実施できる。							○	○		○	
2 継続事例の妊娠期から褥婦の心理社会的側面の診断と援助を説明できる。							○	○		○	
3 継続事例の育児の基本行動習得に向けた支援を計画し、実施できる。							○	○		○	
4 継続事例の妊娠期から産後1ヶ月までの見通しをもった援助を計画し、実施できる。							○	○	○	○	
5 継続事例の母乳育児の支援を実施できる。							○	○		○	
6 継続事例の妊娠期から産褥期における母親役割、父親役割の獲得に向けた支援を実施できる。							○	○		○	
7 継続事例の妊娠期から産褥期・新生児期まで家族関係の再構築を図るための支援を説明できる。							○	○		○	
【授業計画】											
授業計画		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)								
1	事前課題:事前課題:以下の既習内容の復習を行い実習に臨む 1, 妊娠(妊娠の成立、妊娠の維持機構)	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子 非常勤講師	事前課題:以下の既習内容の復習を行い実習に臨む(300分) 1, 妊娠(妊娠の成立、妊娠の維持機構) 2, 妊娠による母体の変化(生殖器の変化、全身の変化、免疫能の特性) 3, 妊娠中の栄養(母体の健康、胎児の健康、妊娠合併症と母体の栄養) 4, 胎児(胎児の発育、臓器の成熟と期間形成期母体の健康、胎児の発育) 5, 胎児付属物(卵膜の構造と機能、羊水の生成と機能、臍帯の構造と機能、胎盤の構造と機能) 6, 分娩の基礎(分娩に関する主な概念、分娩の三要素、定義) 7, 新生児の特徴(身体的特徴、生理的特徴、行動上の特徴) 8, 乳幼児の特徴(身体的特徴、生理的特徴、心理・社会的特徴と行動上の特徴) 9, 妊娠・分娩・産褥と薬物(薬物の作用と母子への影響、授乳期の薬物摂取と母子への影響)								
2	2, 妊娠による母体の変化(生殖器の変化、全身の変化、免疫能の特性) 3, 妊娠中の栄養(母体の健康、胎児の健康、妊娠合併症と母体の栄養)		実習開始後は、日々以下の予習と復習を行う。 予習:受け持った事例の助産診断に基づいたケア計画と実施するために必要な知識の確認(90分×35日間=3150分) 復習:受け持った事例の助産診断に基づいたケア計画と実施したことの振り返り、記録をまとめる(90分×35日間=3150分)								
3	4, 胎児(胎児の発育、臓器の成熟と期間形成期母体の健康、胎児の発育) 5, 胎児付属物(卵膜の構造と機能、羊水の生成と機能、臍帯の構造と機能、胎盤の構造と機能)		分娩介助を行った場合、上記に加え 事後学習:受け持ち事例に対して行った助産過程の記録と知識の確認を行う。 事前学習:翌日以降の実習に必要な知識を確認し、援助技術を事前練習する。 事前・事後学習は、実習時間内の空き時間も利用すること。								
4	6, 分娩の基礎(分娩に関する主な概念、分娩の三要素、定義) 7, 新生児の特徴(身体的特徴、生理的特徴、行動上の特徴)										
5	8, 乳幼児の特徴(身体的特徴、生理的特徴、心理・社会的特徴と行動上の特徴) 9, 妊娠・分娩・産褥と薬物(薬物の作用と母子への影響、授乳期の薬物摂取と母子への影響)										
4	受け持ち決定後は、 予習(90分):状況に応じて健診時期に対応する経過内容を予習し、個別的なケアに対応できるように、実習前に指導教員と相談の機会を持つ。										
5	復習(90分)当日のうちに、健診内容やケアの状況を記録として整理し、その後の経過予測に基づき次回健診結果に生かせるようにする。同時に自身の学びについて考察を深めるために記録を残しておく										
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫							
①:PBL(課題解決型学習)			○	・実習に関する教材・資料・ビデオの提供							
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○	・レポート提出							
③:ディスカッション・ディベート			○	・情報の伝達							
④:グループワーク			○	・授業外学修の支援							
⑤:プレゼンテーション			○								
⑥:実習・フィールドワーク			○								
【課題のフィードバック】											
その都度行う											
【成績の評価方法】											
①実習記録 60% ②助産実践 20% ③実習レポート 10% ④実習態度 10% 合計:100%											
【生成AI活用(有)】											
1)成績評価の対象となるレポートや実習記録等の作成において、生成AIが作成した内容(以下、生成AIの回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文)がわかるように記載してください。											
2)生成AIの回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。											
3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。											
【ルーブリック評価の活用(無)】											
【履修申請上の条件】											
助産の基礎科目、助産診断・技術学を履修していることが望ましい。											
教科書	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN					
①	実践 マタニティ診断 第6版	医学書院	9784260062633	⑤	無痛分娩パーフェクトガイド	メディカ出版 9784840479288					
②	助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ 第6版 [1]妊娠期	医学書院	9784260042086	⑥	図表でわかる無痛分娩プラクティスガイド	メジカルビュー社 9784758321419					
③	今日の助産 改訂第4版	南江堂	9784524246250	⑦	助産師基礎教育テキスト 2025年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア	株式会社日本看護協会出版会 9784818027978					
④	マタニティ診断ガイドブック 第7版	医学書院	9784260062404	⑧							

<p><b>【参考書】</b></p> <p>産婦人科診療ガイドライン—産科編 2023—日本産科婦人科学会編集・監修 9784907890285  医療情報科学研究所(編集)病気がみえる10 産科、Medic Media. 9784896327137  竹田 省 分娩の生理・病態に基づいた頸管熟化と分娩誘発法 メジカルビュー社 9784758321389</p>
<p><b>【オープンな教育リソース】</b></p> <p>特になし</p>
<p><b>【担当教員の実務経験】</b></p> <p>間中:助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。  窪田:助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。  西脇:助産師として、総合病院外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。</p>
<p><b>【オフィスアワー】</b></p> <p>間中、窪田、西脇 学内日 12:10～13:00</p>
<p><b>【教員連絡先】</b></p> <p>間中:tmanaka@g.t-junshin.ac.jp  窪田:yukubota@g.t-junshin.ac.jp  西脇:ynishiwaki@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p><b>【備考】</b></p> <p>事前オリエンテーションに基づいて、自己学習を行う。既習の内容を振り返り、助産師としての自覚をもって主体的に学習して実習に臨む。助産技術を実践するための知識に基づいた特有の技術を習得するために</p>

授業科目名	助産学実習Ⅳ(助産業務管理)	担当教員名	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子 非常勤講師			
コード		区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	後期	1単位/45時間/実習	1単位/45時間/実習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。					
	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。					
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。					
○	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。					
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。					

【授業の概要】  
母子保健演習などで学修したことを復習して実習に臨む。実習期間中も繰り返し復習する。病院の産科病棟、外来における業務管理の実際は、施設概要、業務内容、スタッフ、教育システムから、緊急時・災害時の対応、社会資源の活用および地域との連携、助産院の活動と管理運営の実際により学ぶ。また、助産業務実践における質と安心・安全を確保するために今後の展望について周産期医療施設それぞれの役割や機能、業務内容、連携システムの実際、助産業務実践における更なる質と安心・安全の確保について臨床スタッフや教員、実習指導者から指導を受けながら意見交換することにより学ぶ。

【授業の到達目標】例	評価方法				
	①	②	③	④	⑤
1 助産業務管理の実際を説明できる	○	○	○	○	
2 助産業務に必要な法令とその運用について説明できる	○	○		○	
3 災害および異常事態発生時の助産管理における緊急対応の実際を説明できる	○	○		○	
4 地域の周産期管理システムと連携方法を説明できる	○	○		○	
5 地域における母子支援活動の実際を説明できる	○	○		○	

【授業計画】		授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	1.病院の産科病棟、外来における業務管理の実際を学ぶ。 ・施設概要、業務内容、スタッフ、教育システム	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子 非常勤講師	事前課題:助産概論、助産管理学、地域母子保健、助産過程演習、地域母子保健演習などで学修したことを復習して実習に臨む。実習期間中も繰り返し復習する。 1, 助産管理の基本と助産業務管理(助産管理の基本、助産業務管理の過程、助産業務管理の実際、場に応じた助産業務管理の特徴、助産業務管理と医療経済 2, 助産師及び助産師の業務に関わる法と責任(助産師及び助産師の業務に関わる法と責任(助産師の業務に関わる関係法規、助産師の法的義務・届出に関わる関係法規、女性の支援に関わる関係法規、子どもの支援に関わる関係法規 3, 子どもの支援に関わる関係法規(子どもの支援に関わる関係法規、助産所の管理・運営) 4. 周産期医療における連携・協働(チーム医療における連携) 5. 助産師が行う医療安全と危機管理(安全対策、医療事故防止対策、災害への備え、災害対策・支援活動)	予習:実習計画に基づいて事前課題の見直しを行う(90分) 復習:実習内容を振り返り、記録にまとめる。わからなかったことなどに学修を深める(90分)
2	・緊急時・災害時の対応、社会資源の活用および地域との連携			
3	2.助産院の活動と管理運営の実際を学ぶ。 ・施設概要、業務内容、スタッフ、教育システム ・緊急時・災害時の対応、社会資源の活用および地域との連携			
4	3.助産業務実践における質と安心・安全を確保するための今後の展望 周産期医療施設それぞれの役割や機能、業務内容、連携システムの実践を学び、助産業務実践における更なる質と安心・安全の確保について臨床スタッフや教員と討論する。			
5				

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】  
実習記録への日々の短時間フィードバック、Google Classroom を活用した週次フィードバック、ロールプレイ後のピアフィードバック、ミニカンファレンスによる口頭フィードバックなどを組み合わせ、学生が実習中に学びを即時に修正・深化できるよう支援する。また、実習終了時には強みと課題を整理した総括フィードバックを行い、次の学習につなげる。

【成績の評価方法】  
①実習記録 60%  
②助産実践 20%  
③実習レポート 10%  
④実習態度 10%  
合計:100%

【生成AI活用(有)】  
1)成績評価の対象となるレポートや実習記録等の作成において、生成AIが作成した内容(以下、生成AIの回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文)がわかるように記載してください。  
2)生成AIの回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。  
3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。

【ルーブリック評価の活用(無)】

【履修申請上の条件】  
助産の基礎科目、助産診断・技術学を履修していることが望ましい。

【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN
①	助産学講座 10 助産管理 第6版	医学書院	9784260047098	⑤		
②	助産所開業マニュアル 2021―開設・管理・運営― (2021年版)	株式会社日本助産師会出版	9784905023364	⑥		
③	新版 助産師業務要覧 第4版 [I 基礎編] 2026年版	株式会社日本助産師会出版	9784818029583	⑦		
④				⑧		

【参考書】  
看護六法 令和7年版 新日本法規出版 9784788294769  
助産業務ガイドライン2024 株式会社日本助産師会出版 9784905023395  
今中 雄一「病院」の教科書 第2版 医学書院 9784260051064  
小井土 雄一災害支援における多職種連携 医学書院 9784260057530  
成田 伸 助産師基礎教育テキスト 2026年版 第3巻 助産サービス管理 看護協会出版会 9784818029538

【オープンな教育リソース】  
特になし

【担当教員の実務経験】  
間中:助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。  
窪田:助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。  
西脇:助産師として、総合病院外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。

**【オフィスアワー】**

間中、窪田、西脇 学内日 12:10～13:00

**【教員連絡先】**

間中:tmanaka@g.t-junshin.ac.jp  
窪田:yukubota@g.t-junshin.ac.jp  
西脇:ynishiwaki@g.t-junshin.ac.jp

**【備考】**

事前オリエンテーションに基づいて、自己学習を行う。既習の内容を振り返り、助産師としての自覚をもって主体的に学習して実習に臨む。助産技術を実践するための知識に基づいた特有の技術を習得するために自己練習に励んでほしい。常に社会情勢に関心を持ち深めることに努めてほしい。

授業科目名	助産学実習Ⅴ(地域母子保健)		担当教員名	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子 非常勤講師							
コード	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択							
		○									
年次/期間	後期		1単位/45時間/実習	1単位/45時間/実習							
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】										
○	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。										
○	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。										
○	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。										
○	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。										
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。										
【授業の概要】											
地域で生活する母子の健康生活支援体験をとおして、助産師としての課題を考える。子育て期の母親の理解を深め、地域における母子の健康支援について学ぶ。具体的には保健所で行われている母子保健活動の内容・方法、保健所で行われているサービスが、母子に適応されるまでの過程、保健所における母子保健活動の実施評価、保健所で母子保健サービスを行うための人的資源、財政、物的資源の活用など実習を通して地域における母子保健活動の内容、システムを理解する。ほか、地域で生活する母親の育児状況や親子関係、助産師(看護職)に対する母子のニーズ、母子、家族支援の実際など地域で生活する母子への援助の必要性を地域で開業している助産所実習を通して理解する。また、助産所における医療機関、助産所、地域との連携について異なる施設に勤務する助産師、保健師間の情報共有の方法、母子や家族を支援する職種間の役割を理解する。そして、古来より、人々の生活の中に根付いてきた助産師の活動(助産ケア)の実際を見学することで役割期待について考える。											
【授業の到達目標】例							評価方法				
							①	②	③	④	⑤
1 地域社会で生活する母子を対象とした様々な助産活動を学習し、社会と時代および対象のニーズに即した助産師の役割・業務を説明できる。							○	○	○	○	
2 地域で生活する母子への援助の必要性を説明できる。							○	○	○	○	
3 医療機関、助産所、保健所との連携について説明できる。							○	○	○	○	
4 地域の周産期管理システムと連携方法を説明できる							○	○	○	○	
5 助産師独自の機能と業務範囲、法的責任を説明できる。地域における母子支援活動の実際を説明できる											
【授業計画】											
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)								
1	1. 地域における母子保健活動の内容、システム(保健センター) 1) 保健所で行われている母子保健活動の内容・方法 2) 保健所で行われているサービスが、母子に適応されるまでの過程 3) 保健所における母子保健活動の実施評価	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子 非常勤講師	実習開始前予習 ・助産概論・地域母子保健、地域母子保健演習などの以下の既習科目で学んだことを復習し実習に臨む。								
2	4) 保健所で母子保健サービスを行うための人的資源、財政、物的資源の活用について		1. 地域母子保健の基本(母子保健の概念、母子の健康に関わる因子) 2. 母子保健の動向と課題(統計にみる母子保健の動向、母子保健に関する課題、国際母子保健に関する課題)								
3	2. 地域で生活する母子への援助の必要性(助産所) 1) 地域で生活する母親の育児状況や親子関係 2) 看護職に対する母子のニーズ 3) 母子、家族支援の課題		3. 母子保健行政の体系(母子保健行政の仕組み、母子保健に関わる法律、母子保健に関わる制度、主な母子保健施策) 4. 地域母子保健活動の実際(地域の様々な場における助産師の役割、地域における助産師の活動と留意点、母子保健活動における連携・協働)								
4	3. 医療機関、助産所、地域との連携について(助産所、保健センター) 1) 異なる施設に勤務する助産師、保健師間の情報共有の方法 2) 母子や家族を支援する職種間の役割		・実習目標を達成するために必要な情報や自己の課題について調べノートにまとめる。 実習期間中 予習: 実習内容について調べノートにまとめる(90分) 復習: 実習した内容を振り返り記録にまとめ自己の課題に取り組む(90分)								
5	4. 地域の助産師への役割期待について(地域施設)										
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫							
①:PBL(課題解決型学習)			○								
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)											
③:ディスカッション・ディベート											
④:グループワーク											
⑤:プレゼンテーション											
⑥:実習・フィールドワーク			○								
【課題のフィードバック】											
その都度行う											
【成績の評価方法】											
①実習記録 60% ②助産実践 20% ③実習レポート 10% ④実習態度 10% 合計:100%											
【生成AI利活用(有)】											
1)成績評価の対象となるレポートや実習記録等の作成において、生成AIが作成した内容(以下、生成AIの回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文)がわかるように記載してください。											
2)生成AIの回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。											
3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。											
【ルーブリック評価の活用(無)】											
【履修申請上の条件】											
助産の基礎科目、助産診断・技術学を履修していることが望ましい。											
【教科書】			書名	出版社	ISBN	書名	出版社	ISBN			
①	助産学講座 10 地域母子保健・国際母子保健 第6版	医学書院	9784260050043	⑤							
②				⑥							
③				⑦							
④				⑧							
【参考書】											
看護六法 令和7年版 新日本法規出版 9784788294769 助産業務ガイドライン2024 株式会社日本助産師会出版 9784905023395 小井土 雄一災害支援における多職種連携 医学書院 9784260057530											
【オープンな教育リソース】											
特になし											

**【担当教員の実務経験】**

間中:助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。  
窪田:助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。  
西脇:助産師として、総合病院外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。

**【オフィスアワー】**

間中、窪田、西脇 学内日 12:10～13:00

**【教員連絡先】**

間中:tmanaka@g.t-junshin.ac.jp  
窪田:yukubota@g.t-junshin.ac.jp  
西脇:ynishiwaki@g.t-junshin.ac.jp

**【備考】**

事前オリエンテーションに基づいて、自己学習を行う。既習の内容を振り返り、助産師としての自覚をもって主体的に学習して実習に臨む。助産技術を実践するための知識に基づいた特有の技術を習得するために自己練習に励んでほしい。常に社会情勢に関心を持ち深めることに努めてほしい。

授業科目名	情報処理学演習	担当教員名	井上 救				
コード		区分 (必修・選択)	必修	選択			
年次/期間	前期 or 後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。						
	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。						
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。						
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。						
◎	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。						
【授業の概要】 講義・演習・研究において、問題解決ツールであるソフトウェアやネットワークについて理解し、和文献の文献検索を習得する。また、統計解析するための基本的な知識(Excelを用いた記述統計)と分析方法を習得する。具体的には、Microsoft Japan Co., Ltd(日本マイクロソフト株式会社)のExcelもしくはGoogle LLC(グーグル合同会社)に関連する操作の解説を盛り込み、実際に統計処理をすることで理解が深まるよう教授する。 保健統計のうち基本的なものについて、公表されている統計データの探し方、考え方について解説し、医療に関する統計データを読み取る力がつくようにしました。Excelの基礎(セルの参照、関数の基礎、グラフ作成方法)、Excelによる統計技術(統計代表値、分布、分散と標準偏差、度数分布表とヒストグラム、確率分布・正規分布、区間推定、平均値の差の検定)について演習を通して学ぶ。							
【授業の到達目標】							
評価方法							
			①	②	③	④	
1	Excel基礎について説明できる		○	○			
2	Microsoft Access を用いて、目的に応じたデータベースを作成できる。		○				
3	情報を十分に精査し、Microsoft Access を用いて、課題に応じたデータベースを作成できる。		○				
4							
5							
【授業計画】							
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	ガイダンス	井上 救	予習・復習(45分)：情報処理学について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。				
2	Excelの基礎：セルの参照 セルに入力された値の参照方法について学ぶ	井上 救	予習・復習(45分)：セルの参照について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。				
3	Excelの基礎：関数の基礎1 関数の書式とcount, average, max, minなど基本的な関数の使い方を学ぶ	井上 救	予習・復習(45分)：関数について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。				
4	Excelの基礎：関数の基礎2 if関数等、論理式や条件式を必要とする関数の使い方を学ぶ	井上 救	予習・復習(45分)：関数について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。				
5	Excelの基礎：グラフ グラフの作成方法を学ぶ。	井上 救	予習・復習(45分)：グラフについて予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。				
6	Excelで統計：代表値1 平均値、中央値について学ぶ	井上 救	予習・復習(45分)：代表値について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。				
7	Excelで統計：代表値1 平均値、中央値について学ぶ。Excelで統計：代表値3 条件を満たすデータのみ取り出して、その平均値を計算する手法(条件付き平均値)を学ぶ。	井上 救	予習・復習(45分)：代表値について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。				
8	Excelで統計：分散と標準偏差 「データのばらつき」について学ぶ	井上 救	予習・復習(45分)：分散と標準偏差について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。				
9	Excelで統計：分布とは？ 「分布」について学ぶ。	井上 救	予習・復習(45分)：分布について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。				
10	Excelで統計：度数分布表とヒストグラム Excelによる度数分布表とヒストグラムの作成方法について学ぶ。	井上 救	予習・復習(45分)：度数分布表とヒストグラムについて予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。				
11	Excelで統計：確率分布・正規分布 確率分布の基礎を学ぶ。	井上 救	予習・復習(45分)：確率分布・正規分布について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。				
12	Excelで統計：区間推定1 「区間推定」の原理を学ぶ。	井上 救	予習・復習(45分)：区間推定について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。				
13	Excelで統計：区間推定2 演習で「区間推定」の理解を深める。	井上 救	予習・復習(45分)：区間推定について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。				
14	Excelで統計：区間推定3 演習で「区間推定」の理解を深める。	井上 救	予習・復習(45分)：区間推定について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。				
15	Excelで統計：平均値の差の検定 演習で「平均値の差の検定」の理解を深める。	井上 救	予習・復習(45分)：平均値の差の検定について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。				

<b>【アクティブラーニング】</b>		チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		○	
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○	
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク			
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			
<b>【課題のフィードバック】</b>			
提出された課題に対するフィードバックは、次回の講義に行う。			
<b>【成績の評価方法】</b>			
①課題:80% ②授業貢献度20% 合計:100%			
<b>【生成AI利活用 (有)】</b>			
1)成績評価の対象となるレポートや実習記録等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文がわかるように記載してください)。 2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。 3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。			
<b>【ルーブリック評価の活用 (無)】</b>			
<b>【履修申請上の条件】</b>			
マイクロソフト社のExcelがダウンロードされているPCを使用するため、各自ノートPCを用意してください。			
<b>【教科書】</b>	書名	出版社	ISBN
①	できるGoogleスプレッドシート	株式会社インプレス	9784295020158
②			
③			
④			
			⑤
			⑥
			⑦
			⑧
<b>【参考書】</b>			
ナースのための統計学 第2版 医学書院 白戸亮吉、鈴木研太 著「ていねいな保健統計学」(羊土社) 田久浩志・小島隆矢 著「ナースの統計学」(オーム社) 羽山 博&できるシリーズ編集部 著「できる. やさしく学ぶ Excel統計入門」(インプレス) 高橋麻奈著「統計学」(技術評論社)			
<b>【オープンな教育リソース】</b>			
特になし			
<b>【担当教員の実務経験】</b>			
表計算ソフトを用いたデータ整理・分析・可視化の教育経験が豊富で、初心者にもわかりやすい段階的な指導を得意としている。特に、医療・看護・助産分野で必要となるデータ管理や統計処理の基礎を、実務に即した形で学べるよう授業を設計している。学生が自ら操作しながら理解を深め、レポート作成や研究活動に活かせる実践的なスキルを身につけられるよう支援する。			
<b>【オフィスアワー】</b>			
木曜と土曜、日曜祝日以外の12:10~13:00			
<b>【教員連絡先】</b>			
sinoue@g.t-junshin.ac.jp			
<b>【備考】</b>			

授業科目名	助産研究 I (基礎)	担当教員名	間中 伴子		
コード		区分 (必修・選択)	必修	選択	
年次/期間	前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/演習		
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】				
○	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。				
	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。				
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。				
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。				
◎	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。				
【授業の概要】					
助産専門職には、自己や医療チームの実践を客観的に振り返ることを通して提供する助産ケアをより良いものにしていくことが求められる。そのために、文献検討や事例検討を行いこれらの基本能力を向上させることを狙いとする。最新の研究論文を読みその成果を実践に取り入れていくことを学ぶ。具体的には、研究倫理を踏まえた事例研究の進め方を理解したうえで、電子データベースを用いた文献検索の方法を習得し、研究計画書の作成につなげる。さらに、助産診断実践学会への参加を通して、最新の知見に触れながら研究成果の読み解き方や臨床への応用を学ぶ。学会での観察・記録・振り返りを授業内で共有し、助産実践における課題発見力と探究心を育成することを目指す。					
【授業の到達目標】					
					評価方法
					① ② ③ ④ ⑤
1 研究倫理に基づき事例研究を進める際の留意点を説明でき、授業内の演習で倫理的配慮を適切に記述できる。					○
2 電子データベース(例: CiNii、PubMed 等)を用いて、指定されたテーマに沿った文献を10件以上検索し、検索式・選定理由を明確に示して提出できる。					○
3 収集した文献を批判的に読み、主要な知見・研究方法・限界を整理した文献レビュー(A4 1~2枚)を作成できる。					○
4 研究目的・研究方法・倫理的配慮を含む研究計画書を、指定フォーマットに沿って作成し、論理的整合性と実行可能性を説明できる。					○
5 助産診断実践学会で得た知見を整理し、臨床への応用可能性を含めた学習レポート(A4 1~2枚)を作成し、授業内で口頭発表できる。					○
【授業計画】					
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)		
1	研究の概要、看護実践と研究、事例研究実施における注意 (研究倫理)	間中伴子	・事例研究および研究倫理に関する基礎文献を読み、授業内容の理解を深める。 ・授業で扱った倫理的配慮のポイントを整理し、演習で使用した事例を振り返ってノートにまとめる。		
2	文献検索の実際電子検索等 (図書館)	間中伴子	・電子データベースの検索方法について予習し、検索語の設定方法を確認する。 ・授業で実施した検索演習を振り返り、検索式の改善点を整理する。		
3	文献検索の実際電子検索等 (図書館)	間中伴子	・指定テーマに沿った文献検索を行い、検索結果の妥当性を検討する。 ・検索式・除外基準・選定理由を整理し、文献レビュー作成に向けた準備を行う。		
4	研究計画書について	間中伴子	・研究目的・研究方法・倫理的配慮に関する基礎文献を読み、授業内容を整理する。 ・自身の研究テーマ案について、目的・方法の整合性を検討し、計画書作成の下書きを行う。		
5	助産診断実践学会参加 (2027. 2. 27 東京純心大学開催)	間中伴子	第5~7回: 助産診断実践学会参加 (2/27) ・学会プログラムを事前に確認し、興味のある演題についてクリティックを行う。 ・学会参加後、発表内容の要点・研究方法・臨床応用の可能性を整理し、授業内ディスカッションに備える。		
6	助産診断実践学会参加 (2027. 2. 28 東京純心大学開催)	間中伴子			
7	助産診断実践学会参加 (2027. 2. 29 東京純心大学開催)	間中伴子			
8	助産診断実践学会参加 (2027. 2. 30 東京純心大学開催)	間中伴子	・最終日のプログラムを確認し、質問事項を整理する。 ・学会全体を通して得られた学びをまとめ、学習レポート作成に向けた振り返りを行う。		
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫	
①: PBL (課題解決型学習)			○	・文献検索やクリティックの演習において、学生同士が検索式や評価視点を共有し合うピア・ラーニングを取り入れ、批判的思考の育成を図る。	
②: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○	・研究計画書作成に向けて、授業内で小グループによる意見交換を行い、研究目的・方法・倫理的配慮の妥当性を相互に検討する機会を設ける。	
③: ディスカッション・ディベート			○	・助産診断実践学会への参加を通して得た知見を授業内で共有し、発表内容の分析や臨床応用についてディスカッションを行う。	
④: グループワーク			○	・学会参加前には、プログラムを用いた事前クリティックを行い、主体的に学会に臨むための準備学習を促す。	
⑤: プレゼンテーション			○		
⑥: 実習・フィールドワーク					
【課題のフィードバック】					
提出された課題に対するフィードバックは次の講義時に行います。					
【成績の評価方法】					
①課題: 80%					
②授業に対する貢献度 20%					
合計: 100%					
【生成AI活用 (有)】					
1)成績評価の対象となるレポートや実習記録等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文元)がわかるように記載してください。					
2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。					
3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。					
【ルーブリック評価の活用 (有)】					
授業中に評価表を配布する。					
【履修申請上の条件】					
特になし					
【教科書】	書名	出版社	ISBN	書名	出版社
①				⑤	
②				⑥	
③				⑦	
④				⑧	

<p><b>【参考書】</b>  山本則子 ケアの意味を見つめる事例研究: 看護実践の知を探究する研究方法論 医学書院  山本則子 看護研究における文献の調べ方・活かし方 日本看護協会出版会 医学書院</p>
<p><b>【オープンな教育リソース】</b>  特になし</p>
<p><b>【担当教員の実務経験】</b>  間中伴子:助産師として助産学・母性看護学を専門とし、特に「院内助産」「母子健康手帳のテキスト分析」「助産師外来」「分娩体位」「地域母子保健」「プレコンセプションケア」などを中心に研究を展開している。その実績を活かし研究の楽しさを伝えられるよう講義します。</p>
<p><b>【オフィスアワー】</b>  間中伴子:月～金 12:10～13:00</p>
<p><b>【教員連絡先】</b>  tmanaka@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p><b>【備考】</b>  日々、助産師として業務をこなすだけではもったいない。助産ケアをよくするために研究に取り組んでみましょう。</p>

授業科目名	助産研究Ⅱ(実践)		担当教員名			
コード		区分 (必修・選択)	必修	選択		
年次/期間	前期 or 後期		単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習		
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。					
	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。					
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。					
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。					
◎	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。					
【授業の概要】						
助産専門職には、自己や医療チームの実践を客観的に振り返ることを通して提供する助産ケアをより良いものにしていくことが求められる。そのために、文献検討や事例検討を行いこれらの基本能力を向上させることを狙いとする。最新の研究論文を読みその成果を実践に取り入れていくことを学ぶ。基本的には、継続事例に対する事例研究に取り組む。具体的には、助産(看護)現象を客観的に捉え、問題を科学的に探求する看護研究の方法を学習するとともに、研究的思考能力を養う。文献検索、クリティークを重ねたうえで研究テーマの絞り込みを行い、事例研究のテーマから論文作成までの一連の流れを実施することで研究に活用する基礎的能力を修得する。さらに、学修過程において、他者にわかりやすくプレゼンテーションする能力、相互にディスカッションする能力を強化する。						
【授業の到達目標】						評価方法
						① ② ③ ④ ⑤
1 助産における根拠に基づく助産実践の重要性を説明できる。						
2 助産にかかわる既存の研究の検討を通して、臨床疑問(クリニカル・クエスチョン)の見つけ方を説明できる。						○
3 論文の書式、表現、論理構成などを説明できる。						○
4 助産における研究結果と実践への応用について説明できる。						○
5 自身の研究を学術集会で発表できる。						○
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	ガイダンス	間中伴子	シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)			
2	文献検索	間中伴子	シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)			
3	文献検索	間中伴子	シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)			
4	クリティーク	間中伴子	シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)			
5	クリティーク	間中伴子	シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)			
6	クリティーク	間中伴子	シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)			
7	研究テーマ決定	間中伴子	シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)			
8	研究計画立案	間中伴子	シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)			
9	研究計画立案	間中伴子	シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)			
10	研究計画発表プレゼンテーション資料作成	間中伴子	シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)			
11	研究計画発表	間中伴子	シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)			
12	論文作成	間中伴子	シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)			
13	論文作成	間中伴子	シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)			
14	論文作成	間中伴子	シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)			
15	論文投稿	間中伴子	予習発表した論文を修正する。講義全体を振り返り、分からないことを抽出する。(30分) 復習 今まで学んだ内容をノートにまとめる。(15分)			
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫		
①:PBL(課題解決型学習)						
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○			
③:ディスカッション・ディベート			○			
④:グループワーク						
⑤:プレゼンテーション			○			
⑥:実習・フィールドワーク						

<b>【課題のフィードバック】</b>					
次回講義時に行う。					
<b>【成績の評価方法】</b>					
①講義・演習参加状況(20%) ②プレゼンテーション内容・発表(20%) ③論文提出内容(60%) 合計:100%					
<b>【生成AI利活用（有）】</b>					
1)成績評価の対象となるレポートや実習記録等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文元がわかるように記載してください)。 2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。 3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。					
<b>【ルーブリック評価の活用（有）】</b>					
授業時配布する					
<b>【履修申請上の条件】</b>					
特になし					
<b>【教科書】</b>					
	書名	出版社	ISBN	書名	出版社 ISBN
①	その都度資料を配布する			⑤	
②				⑥	
③				⑦	
④				⑧	
<b>【参考書】</b>					
黒田裕子 黒田裕子の看護研究 Step by Step 第6版 医学書院 山本則子 ケアの意味を見つめる事例研究:看護実践の知を探究する研究方法論 医学書院 山本則子 看護研究における文献の調べ方・活かし方 日本看護協会出版会 医学書院					
<b>【オープンな教育リソース】</b>					
特になし					
<b>【担当教員の実務経験】</b>					
間中伴子:助産師として助産学・母性看護学を専門とし、特に「院内助産」「母子健康手帳のテキスト分析」「助産師外来」「分娩体位」「地域母子保健」「プレコンセプションケア」などを中心に研究を展開している。その実績を活かし研究の楽しさを伝えられるよう講義します。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
間中伴子:月～金 12:10～13:00					
<b>【教員連絡先】</b>					
tmanaka@g.t-junshin.ac.jp					
<b>【備考】</b>					
初めてでも大丈夫です。一緒に楽しみながら研究しましょう。					